

福島県文化財調査報告書 第512集

福島県内遺跡分布調査報告23

2016年7月

福島県教育委員会

福島県内遺跡分布調査報告 23

序 文

福島県教育委員会は、大規模開発等から埋蔵文化財包蔵地を保護するため、開発事業が行われる以前に詳細な分布調査を実施し、関係機関と保存協議を行い、埋蔵文化財の保存に努めております。

平成27年度は、3市2町の区域内で計画された3事業の試掘・確認調査、及び1市の区域内で計画された1事業の分布調査を公益財団法人福島県文化振興財団に委託して行いました。

浜通り地方では、相馬市において一般国道115号相馬福島道路建設事業に関連した3箇所を試掘・確認調査を実施しました。また、いわき市において主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)に関連した1箇所の確認調査を実施しました。

中通り地方では、伊達市・桑折町において一般国道115号相馬福島道路建設事業に関連した10箇所の試掘・確認調査を実施しました。

会津地方では、南会津郡下郷町において会津縦貫南道路建設事業に関連した4箇所の試掘・確認調査を実施しました。

試掘・確認調査の結果、存在が知られていた遺跡の範囲や内容が明らかになるとともに、これまで知られていなかった遺跡を発見することもできました。

この報告書が、埋蔵文化財の保護や地域の歴史を解明するための基礎資料となり、さらには生涯学習の資料として広く県民の皆様に御活用いただければ幸いです。

最後に、この調査に御協力いただいた当該市町村教育委員会や公益財団法人福島県文化振興財団をはじめ関係機関並びに関係各位に対し深く感謝の意を表します。

平成28年7月

福島県教育委員会

教育長 鈴木 淳一

緒 言

1. 本書は、平成27年度に実施した一般国道115号相馬福島道路、地域高規格道路(会津縦貫南道路)、主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)の各建設予定地内に所在する遺跡及び遺跡推定地(試掘調査により遺跡の存否を確認する地点)の分布・試掘・確認調査の報告書である。
2. この調査は、国庫補助を受け福島県教育委員会が実施した。
3. 福島県教育委員会は、調査を公益財団法人福島県文化振興財団に委託した。
4. 福島県教育委員会は、公益財団法人福島県文化振興財団が実施した調査に基づき、埋蔵文化財の取扱いを決定した。
5. 公益財団法人福島県文化振興財団は、下記の職員を配置して調査を実施した。

副 主 幹 藤谷 誠	文化財主査 門脇 秀典
文化財主事 鶴見 諒平	文化財主事 安田 創
6. 本書は、福島県教育庁文化財課職員及び公益財団法人福島県文化振興財団(遺跡調査部遺跡分布調査担当)の職員が執筆した。
7. 調査にあたっては、地元地権者・地権者会・行政区長をはじめ下記の機関に多くの協力をいただいた。






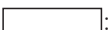



相馬市教育委員会 伊達市教育委員会 桑折町教育委員会 下郷町教育委員会
いわき市教育委員会 福島県土木部(いわき建設事務所・南会津建設事務所)
国土交通省東北地方整備局(福島河川国道事務所・郡山国道事務所・磐城国道事務所)
公益財団法人いわき市教育文化事業団 鮫川堰土地改良区
8. 事業名称が長いものについては、一部省略した表現を用いている。
9. 本書に使用した遺跡の調査記録及び出土資料は、福島県教育委員会が保管している。

用 例

1. 本書における用例は次のとおりである。

- (1) 遺跡及び遺跡推定地の位置図は、国土交通省国土地理院発行縮尺1/25,000の地形図(相馬中村・保原・福島北部・湯野上・甲子山・磐城泉)及び同じく縮尺1/50,000の地形図(小名浜)を複製した。一般国道115号相馬福島道路位置図は、国土交通省国土地理院発行縮尺1/200,000の地勢図(福島)を、会津縦貫南道路位置図は同じく縮尺1/200,000の地勢図(福島・白河・新潟・日光)を複製したものを使用している。
- (2) トレンチ配置図は、各事業主体作製の縮尺1/1,000・1/2,000・1/2,500地形図を基とした。

2. 本書第2章における遺跡・遺跡推定地及びトレンチ配置図の用例は次のとおりである。

- (1) : 現状保存範囲
- (2) : 未試掘範囲
- (3) : 工事などの実施にあたっては慎重工事の措置をとる必要がある範囲
- (4) : 遺跡推定地で遺構・遺物が確認されず、遺跡として取り扱わないと判断された範囲
- (5) : 遺構・遺物が確認できたトレンチ
- (6) : 遺構・遺物が確認できなかったトレンチ
- (7) : 工事予定範囲
- (8) : 周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲
- (9) : 分布(表面)調査による遺跡推定地の範囲

3. 遺跡推定地の名称は便宜上アルファベットの「B」と算用数字を組合せて表記するが、試掘調査によって遺跡であることが確定すれば所在地の字名や地名をとり、新たに遺跡名称を付している。

4. 各遺跡の呼び方は、『日本地名大辞典7福島県』(角川書店)収録の「小字一覧」にならったが、通称が定着しているときは、それに従った。

5. 遺構図の用例は次のとおりである。

- (1) 平面図の縮尺は、基本的に各挿図版の右下(スケール右側)に記した。
- (2) 検出した遺構は、網点で表示した。
- (3) 土色の判定に際しては、『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社)を用いた。

6. 本書で使用した略号は、次のとおりである。

T	: トレンチ	L	: 遺構外堆積土	ℓ	: 遺構内堆積土		
SK	: 土 坑	SD	: 溝 跡	P	: 小 穴	SX	: 性格不明遺構
SM	: 相 馬 市	DT	: 伊 達 市	QR	: 桑 折 町	CG	: 下 郷 町
IWK	: い わ き 市						

目 次

第1章 遺跡分布調査の概要	1
第2章 試掘・確認調査	4
第1節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地	4
(1) 相馬市の遺跡	
SM-B① (5)	SM-B② (5)
	SM-B⑤[東羽黒平遺跡] (6)
(2) 伊達市の遺跡	
DT-B22[下小国荒屋敷遺跡] (7)	山岸遺跡 (9)
	上ノ台館跡 (10)
DT-B34[上ノ台遺跡] (13)	DT-B26 (14)
	DT-B35 (14)
DT-B28 (15)	
(3) 桑折町の遺跡	
QR-B2[川原田遺跡] (16)	QR-B3 (19)
	QR-B4 (20)
第2節 地域高規格道路(会津縦貫南道路)建設予定地	20
(1) 下郷町の遺跡	
CG-B13 (22)	瀧ノ入遺跡 (23)
	CG-B11 (25)
辻堂下遺跡 (26)	
第3節 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)建設予定地	27
(1) いわき市の遺跡	
江畑館跡 (28)	
第3章 分布調査	29
第1節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地	29
第4章 総括	30
報告書抄録	37

挿図・表・写真目次

[挿 図]

第1章

図 1 県内遺跡分布調査位置図	1
-----------------	---

第2章

図 2 一般国道 115 号相馬福島道路位置図	4
図 3 相馬市の遺跡	5
図 4 SM-B①トレンチ配置図	5
図 5 SM-B②トレンチ配置図	6
図 6 SM-B⑤〔東羽黒平遺跡〕トレンチ配置図	6
図 7 伊達市の遺跡(1)	7
図 8 DT-B 22 トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物	8
図 9 山岸遺跡トレンチ配置図	9
図 10 上ノ台館跡・DT-B 34 トレンチ配置図・縄張り図	10
図 11 上ノ台館跡検出遺構・土層柱状図・出土遺物	12
図 12 DT-B 34 検出遺構・土層柱状図	13
図 13 伊達市の遺跡(2)	14
図 14 DT-B 26・B 35 トレンチ配置図	15
図 15 DT-B 28 トレンチ配置図	16
図 16 桑折町の遺跡	17
図 17 QR-B 2 トレンチ配置図	17
図 18 QR-B 2 検出遺構・土層柱状図・出土遺物	18

[表]

第1章

表 1 一般国道 115 号相馬福島道路試掘・確認調査遺跡一覧	2・3
表 2 地域高規格道路(会津縦貫南道路)試掘・確認調査遺跡一覧	2・3
表 3 主要地方道いわき上三坂線(小名浜道路)試掘・確認調査遺跡一覧	2・3

第2章

表 4 DT-B 22 トレンチ一覧	9
表 5 上ノ台館跡トレンチ一覧	13
表 6 DT-B 34 トレンチ一覧	13
表 7 QR-B 2 トレンチ一覧	18
表 8 CG-B 13 トレンチ一覧	23
表 9 瀧ノ入遺跡トレンチ一覧	23

第3章

表 10 一般国道 115 号相馬福島道路(追加分)関連遺跡一覧(伊達市)	29
---------------------------------------	----

[写 真]

第1章

1 相馬福島道路(上ノ台館跡付近)遠景(南から)	1
--------------------------	---

第2章

2 DT-B 22 37T 遺物出土状況(北東から)	7
3 上ノ台館跡 堀切④近景(北東から)	11

図 19 QR-B 3・B 4 トレンチ配置図	19
図 20 地域高規格道路(会津縦貫南道路)位置図	20
図 21 下郷町の遺跡	21
図 22 CG-B 13 トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図・出土遺物	22
図 23 瀧ノ入遺跡トレンチ配置図・土層柱状図	24
図 24 瀧ノ入遺跡検出遺構・出土遺物	25
図 25 CG-B 11 トレンチ配置図	26
図 26 辻堂下遺跡トレンチ配置図	26
図 27 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)位置図	27
図 28 いわき市の遺跡	27
図 29 江畑館跡トレンチ配置図	28

第3章

図 30 一般国道 115 号相馬福島道路予定地(追加分)と遺跡・遺跡推定地	29
--	----

第4章

図 31 下小国荒屋敷遺跡の範囲	34
図 32 上ノ台遺跡の範囲	35
図 33 大上山遺跡の範囲	35
図 34 川原田遺跡の範囲	36

第4章

表 11 相馬福島道路(相馬西道路)関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(相馬市)	30
表 12 相馬福島道路(霊山道路)関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(伊達市)	31
表 13 相馬福島道路(霊山～福島)関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(伊達市・桑折町)	32
表 14 地域高規格道路(会津縦貫南道路)関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(下郷町)	33
表 15 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)関連試掘調査対象遺跡成果一覧(いわき市)	33
表 16 埋蔵文化財包蔵地(新規・変更)一覧	34

4 上ノ台館跡 36T 遺構検出状況(南から)	11
5 DT-B 34 1 T 遺構検出状況(南西から)	13
6 QR-B 2 21T 遺構検出状況(南から)	16
7 CG-B 13 10T 遺構検出状況(東から)	23
8 瀧ノ入遺跡 1 T 遺構検出状況(北から)	23

第1章 遺跡分布調査の概要

平成27年度は、3事業(3市2町)についての試掘・確認調査、及び1事業(1市)の分布(表面)調査を公益財団法人福島県文化振興財団に委託して実施した。また、地域高規格道路(会津縦貫南道路)のCG-B13の試掘調査(第2次調査)については、下郷町教育委員会が実施した調査の結果を反映させた。

[一般国道115号相馬福島道路]

相馬市・伊達市・桑折町における計画路線内の13箇所、計99,900㎡の遺跡及び遺跡推定地を対象に試掘・確認調査と1箇所、27,900㎡の測量調査を実施した。一般国道115号相馬福島道路は、相馬西道路、阿武隈東道路、阿武隈東～阿武隈、霊山道路、霊山～福島の5区間に分かれて建設が進められている。このうち、阿武隈東道路は平成21年度、阿武隈東～阿武隈は平成26年度に試掘・確認調査及び本発掘調査が終了している。

相馬西道路の区間では、3箇所を試掘・確認調査を実施したが、保存を要する箇所は確認できなかった。これをもって、相馬西道路の区間のすべての試掘・確認調査は終了した。

霊山道路の区間では、2箇所を試掘・確認調査を実施した。その結果、DT-B22で遺構・遺物を確認し、3,600㎡を保存範囲とした。

霊山～福島の区間では、8箇所を試掘・確認調査を実施した。その結果、上ノ台館跡・DT-B34・QR-B2で遺構・遺物を確認した。上ノ台館跡では15,600㎡を、DT-B34では600㎡を、QR-B2では3,700㎡を保存範囲とした。

[地域高規格道路(会津縦貫南道路)]

下郷町における計画路線内の4箇所、計13,800㎡の遺跡及び遺跡推定地を対象に試掘・確認調査を実施した。その結果、CG-B13と瀧ノ入遺跡で遺構・遺物を確認した。CG-B13では150㎡を、瀧ノ入遺跡では4,000㎡を保存範囲とした。

[主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)]

いわき市における計画路線内の江畑館跡(10,000㎡)を対象に確認調査を実施した。その結果、保存対象箇所はなかった。



1 相馬福島道路(上ノ台館跡付近)遠景(南から)

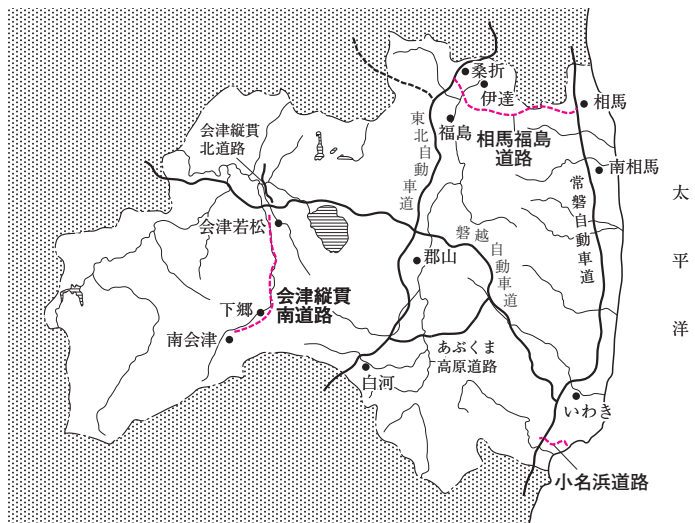


図1 県内遺跡分布調査位置図

表1-1 一般国道115号相馬福島道路試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内面積 (㎡)	平成27年度調査			
					対象面積 (㎡)	トレンチ		
						本数	掘削面積 (㎡)	割合
S M - B ①	相馬市山上字荒屋舗	沖積地	H27.6.18～6.19	7,600	3,100	4	180.0	5.8%
S M - B ②	相馬市今田字山野	沖積地	H27.6.17 H27.11.11	5,900	4,800	10	211.8	4.4%
S M - B ⑤ (東羽黒平遺跡)	相馬市今田字東羽黒平・湯在小路	沖積地・段丘	H27.6.30 H27.11.10	13,900	3,500	10	82.0	2.3%
相馬西道路 (相馬市) 計				27,400	11,400	24	473.8	4.2%
D T - B22	伊達市霊山町下小国字荒屋敷・字桜町・沖	段丘	H27.5.13～5.21	33,000	19,000	44	500.5	2.6%
山岸遺跡	伊達市霊山町下小国字山岸・清水	段丘	H27.5.22	2,000	1,300	3	41.0	3.2%
霊山道路 (伊達市) 計				35,000	20,300	47	541.5	2.7%
上ノ台館跡	伊達市霊山町下小国字上ノ台	丘陵	H27.4.22～4.24 H27.6.15～7.29	27,900	27,900	測量 50	- 259.3	- 2.8%
D T - B34	伊達市霊山町下小国字上ノ台	丘陵	H27.7.13～7.29	2,300	1,900	8	29.5	1.6%
D T - B26	伊達市保原町大柳字栃窪入	丘陵	H27.11.24～12.11	18,500	18,500	50	707.0	3.8%
D T - B35	伊達市保原町大柳字栃窪入	丘陵	H27.12.9	2,600	1,400	4	32.0	2.3%
D T - B28	伊達市保原町上保原字将婦坂	丘陵	H27.7.28～8.5	14,200	7,900	24	528.0	6.7%
霊山～福島 (伊達市) 計				65,500	試掘 39,100 測量 27,900	136	1555.8	4.0%
Q R - B 2	桑折町松原字川原田・姫松・沢田 成田字半五郎	段丘	H27.9.29～10.9	18,500	14,600	53	499.8	3.4%
Q R - B 3	桑折町松原字日照田	段丘	H27.9.14～9.28	20,500	10,800	31	248.0	2.3%
Q R - B 4	桑折町松原字館ノ前	段丘	H27.9.1～9.4	20,300	3,700	12	108.9	2.9%
霊山～福島 (桑折町) 計				59,300	29,100	96	856.7	2.9%
相馬福島道路 合計 (1)				187,200	試掘 99,900 測量 27,900	303	3427.8	3.4%

表2-1 地域高規格道路(会津縦貫南道路)試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内面積 (㎡)	平成27年度調査			
					対象面積 (㎡)	トレンチ		
						本数	掘削面積 (㎡)	割合
C G - B13	下郷町高隣字下居平乙	段丘	H27.6.1～6.2 H27.10.21	12,000	2,800	8	96.0	3.4%
瀧ノ入遺跡	下郷町白岩字瀧ノ入	段丘	H27.10.22～11.5	7,200	5,600	23	284.7	5.1%
C G - B11	下郷町中妻字辻道	段丘	H27.10.21	7,000	4,700	8	55.0	1.2%
辻堂下遺跡	下郷町中妻字辻道下	段丘	H27.10.20	3,700	700	2	16.0	2.3%
会津縦貫南道路 (下郷町) 合計 (2)				29,900	13,800	41	451.7	3.3%

表3-1 主要地方道いわき上三坂線(小名浜道路)試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内面積 (㎡)	平成27年度調査			
					対象面積 (㎡)	トレンチ		
						本数	掘削面積 (㎡)	割合
江畑館跡	いわき市江畑町堀ノ内	丘陵	H 27.11.18～12.11	10,000	10,000	53	387.0	3.9%
小名浜道路 (いわき市) 合計 (3)				10,000	10,000	53	387.0	3.9%
平成27年度試掘・確認調査遺跡 総合計 (1) + (2) + (3)				227,100	試掘 123,700 測量 27,900 計 151,600	397	4,266.5	3.4%

【註】：表中のトレンチ内の%は、今年度の試掘・確認調査対象面積に対するトレンチ掘削面積の割合を示す。

表 1-2 一般国道 115 号相馬福島道路試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	平成 27 年度調査結果			保存面積 (㎡)	未試掘面積 (㎡)	備考
	遺構	遺物	取扱い			
SM-B①	なし	縄文土器	除外	0	0	試掘調査完了
SM-B②	なし	なし	除外	0	0	試掘調査完了
SM-B⑤ (東羽黒平遺跡)	なし	なし	慎重工事	0	0	確認調査完了
相馬西道路 (相馬市) 計				0	0	
DT-B22	遺物包含層	縄文土器・石器	一部保存	3,600	8,300	下小国荒屋敷遺跡として登録 未試掘面積を含め、終了
山岸遺跡	なし	なし	慎重工事	0	300	未試掘面積を含め、終了
霊山道路 (伊達市) 計				3,600	8,600	
上ノ台館跡	溝跡・平場	なし	一部保存	11,900	3,000	縄張り図作成
	溝跡・土坑	縄文土器	一部保存	3,700	1,300	
DT-B34	土坑・構築排土層	なし	一部保存	600	400	上ノ台遺跡として登録
DT-B26	なし	なし	除外	0	0	試掘調査完了
DT-B35	なし	なし	除外	0	1,100	
DT-B28	なし	なし	除外	0	300	未試掘面積を含め、終了
霊山～福島 (伊達市) 計				16,200	6,100	
QR-B 2	溝跡・土坑・遺物包含層	縄文土器・須恵器・土師器・石器	一部保存	3,700	3,900	川原田遺跡として登録
QR-B 3	なし	須恵器・土師器	除外	0	9,700	
QR-B 4	なし	なし	除外	0	16,600	
霊山～福島 (桑折町) 計				3,700	30,200	
相馬福島道路 合計 (1)				23,500	44,900	

表 2-2 地域高規格道路(会津縦貫南道路)試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	平成 27 年度調査結果			保存面積 (㎡)	未試掘面積 (㎡)	備考
	遺構	遺物	取扱い			
CG-B13	土坑	縄文土器	一部保存	150	8,600	
瀧ノ入遺跡	土坑・遺物包含層	弥生土器	一部保存	4,000	1,600	未試掘面積を含め、終了
CG-B11	なし	なし	除外	0	2,300	
辻堂下遺跡	なし	なし	慎重工事	0	3,000	
会津縦貫南道路 (下郷町) 合計 (2)				4,150	15,500	

表 3-2 主要地方道いわき上三坂線(小名浜道路)試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	平成 27 年度調査結果			保存面積 (㎡)	未試掘面積 (㎡)	備考
	遺構	遺物	取扱い			
江畑館跡	なし	土師器	慎重工事	0	0	確認調査完了
小名浜道路 (いわき市) 合計 (3)				0	0	
平成 27 年度試掘・確認調査遺跡		総合計 (1) + (2) + (3)		27,650	60,400	

第2章 試掘・確認調査

第1節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地

一般国道115号相馬福島道路は、常磐自動車道と東北自動車道を結ぶ、全長約45kmの高規格幹線道路(自動車専用道路)として計画され、東日本大震災からの早期復興を図る復興支援道路として緊急に整備されることとなった。全5区間のうち、相馬西道路と阿武隈東道路の2区間は国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所が、阿武隈東～阿武隈と霊山道路と霊山～福島との3区間は同省同局福島河川国道事務所が事業を進めている。

本事業の埋蔵文化財に関する調査は、平成14年度の阿武隈東道路での分布(表面)調査より開始した。その後、同区間では平成18年度より試掘・確認調査を実施し、平成21年度には同区間にかかる本発掘調査は終了している。

相馬西道路の区間にかかる分布(表面)調査は平成23年度に実施し、平成25年度より試掘調査及び本発掘調査を開始した。平成27年度は相馬市に所在する遺跡・遺跡推定地(計3箇所)で試掘・確認調査を実施し、同区間にかかる試掘・確認調査及び本発掘調査はすべて終了した。

阿武隈東～阿武隈の区間にかかる分布(表面)調査は平成24年度に実施し、同年度より試掘・確認調査を開始し、平成26年度には同区間にかかる試掘・確認調査及び本発掘調査はすべて終了している。

霊山道路の区間にかかる分布調査は平成18・21年度に実施し、平成24年度より試掘・確認調査を、平成25年度には本発掘調査を開始した。平成27年度は伊達市に所在する遺跡・遺跡推定地(計2箇所)で試掘・

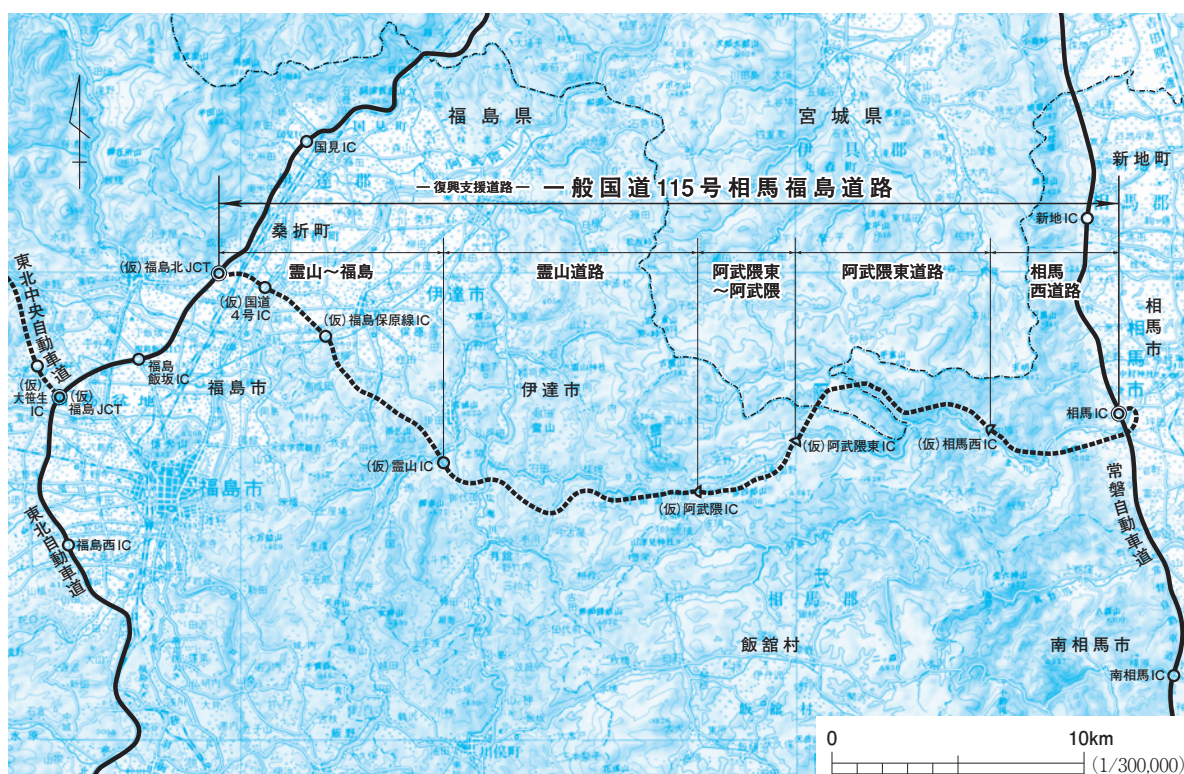


図2 一般国道115号相馬福島道路位置図

確認調査を実施した。

霊山～福島の間にかかる分布調査は平成24年度に実施し、平成26年度より試掘調査を開始した。平成27年度は伊達市に所在する遺跡・遺跡推定地(計5箇所)、桑折町に所在する遺跡推定地(計3箇所)で試掘・確認調査を実施した。

(1) 相馬市の遺跡

1. SM-B① (第4次調査)

所在地 相馬市山上字荒屋舗

調査対象面積 3,100㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 縄文土器

【概要】 SM-B①は、平成23年度の分布(表面)調査において、土師器の破片が採取されたことから、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告19』)。宇多川右岸の沖積地に立地し、現況は畑・荒地である。

本年度の試掘調査は、工区内の3,100㎡を対象に、トレンチ4本を設定して行った。

【まとめ】 試掘調査の結果、各トレンチの表土直下が氾濫原の砂・礫層であり、遺構は確認できなかった。15Tより縄文土器が1点出土したが、摩耗が著しく、調査箇所より離れた場所からの流れ込みであると判断した。よって工区内調査範囲は、遺跡として扱わない。

また、今回の調査をもって、SM-B①のすべての調査は終了した。

2. SM-B② (第2・3次調査)

所在地 相馬市今田字山野

調査対象面積 4,800㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

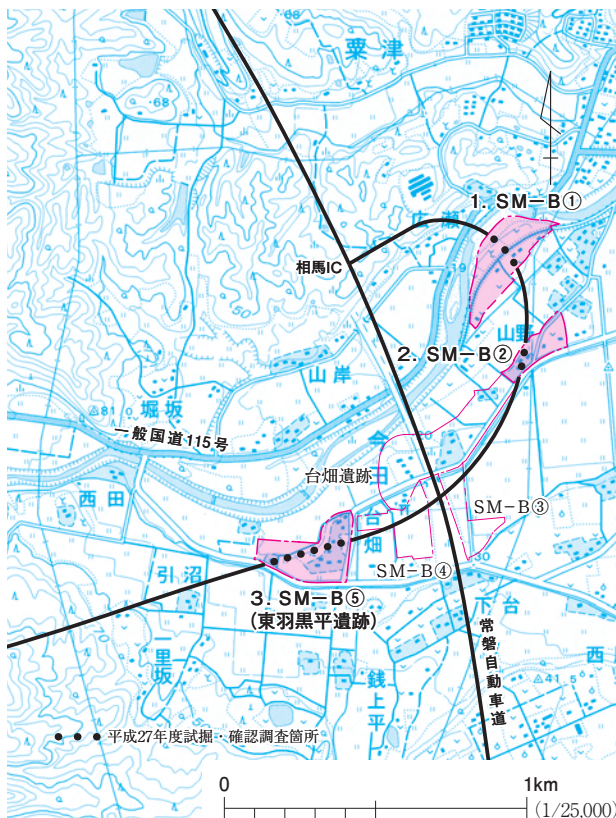


図3 相馬市の遺跡

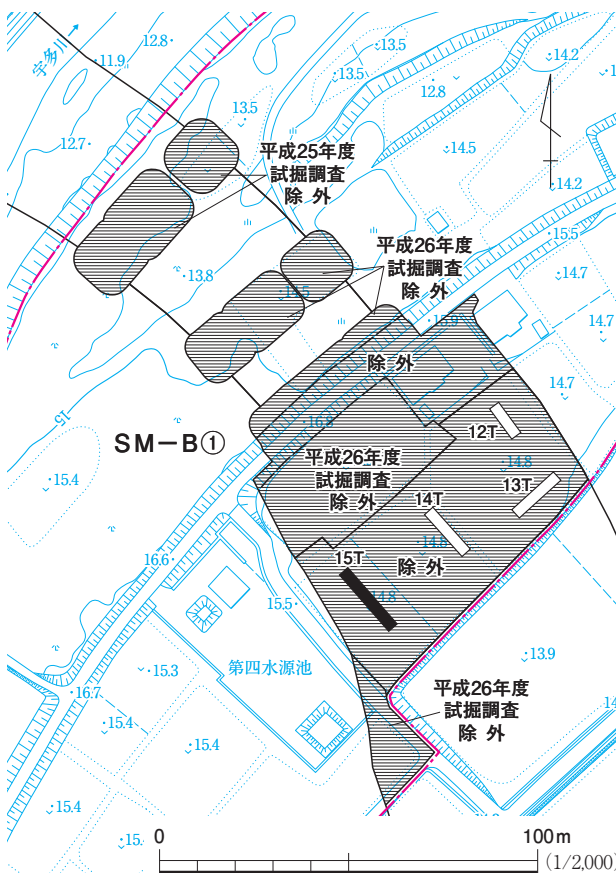


図4 SM-B①トレンチ配置図

【概要】 SM-B②は、平成23年度の分布(表面)調査において、土師器・須恵器の破片が採取されたことから、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告19』)。宇多川右岸の沖積地に立地し、調査区の中央部から南部にかけては自然堤防状の微高地となっている。現況は宅地・畑・荒地である。

本年度の試掘調査は、工区内の4,800㎡を対象に、トレンチ10本を設定して行った。

【まとめ】 試掘調査の結果、各トレンチの表土直下が氾濫原の砂・礫層であり、遺構や遺物は確認できなかった。よって工区内調査範囲は、遺跡として扱わない。

また、今回の調査をもって、SM-B②のすべての調査は終了した。

3. SM-B⑤ ^{ひがしはぐるだいら} [東羽黒平遺跡]
(第4・5次調査)

所在地 相馬市今田字東羽黒平、字湯在小路

調査対象面積 3,500㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

【概要】 SM-B⑤は、平成23年度の分布(表面)調査において、土師器・須恵器の破片が採取されたことから、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告19』)。その後、平成25年度に工区内の9,900㎡を対象に試掘調査(第1～3次)が実施され、保存面積4,800㎡が確定し、

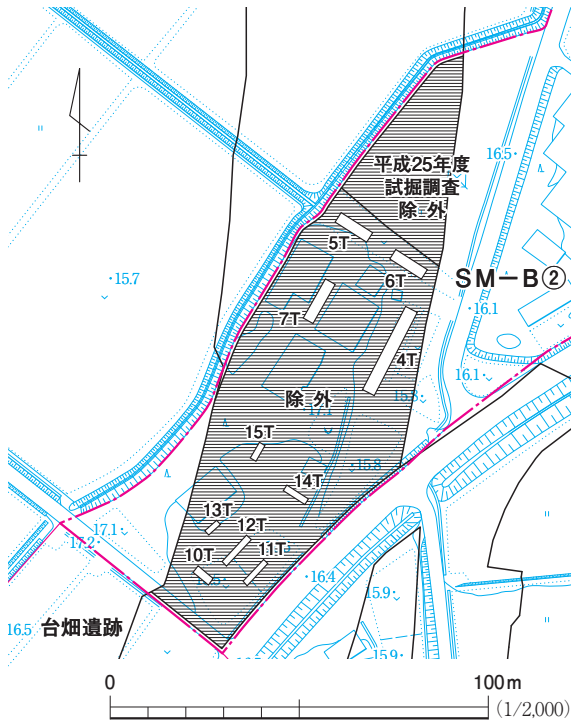


図5 SM-B②トレンチ配置図

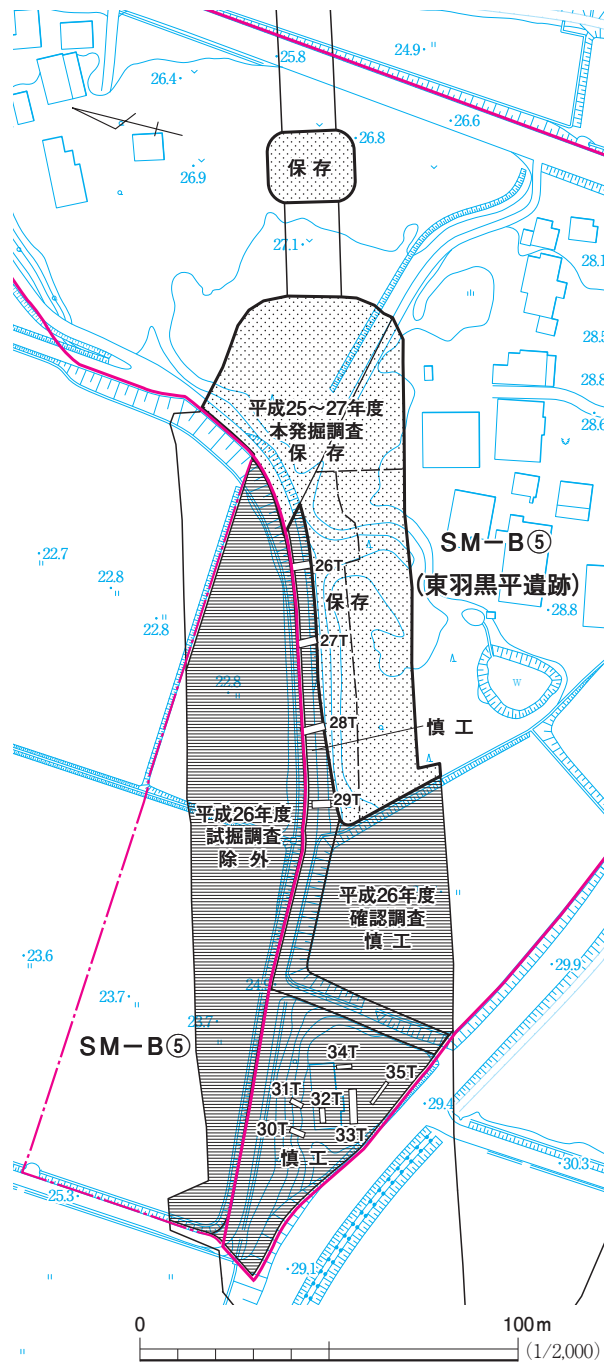


図6 SM-B⑤ [東羽黒平遺跡] トレンチ配置図

東羽黒平遺跡として登録した。これに関しての本発掘調査は平成25～27年度に実施している。

SM-B⑤[東羽黒平遺跡]は宇多川右岸の低位段丘に立地し、現況は宅地・水田・畑・山林である。本年度の確認調査は、工区内の3,500㎡を対象に、トレンチ10本を設定して行った。

[ま と め] 確認調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって本年度の確認調査範囲は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、今回の調査をもって、SM-B⑤[東羽黒平遺跡]のすべての調査は終了した。

(2) 伊達市の遺跡

1. DT-B22しもおくにあらやしき[下小国荒屋敷遺跡] (第2次調査)

所在地 伊達市霊山町下小国字荒屋敷、
字桜町、字沖

調査対象面積 19,000㎡

保存面積 3,600㎡

検出遺構 遺物包含層

出土遺物 縄文土器・石器

[概要] DT-B22は、平成24年度の分



2 DT-B22 37T遺物出土状況(北東から)

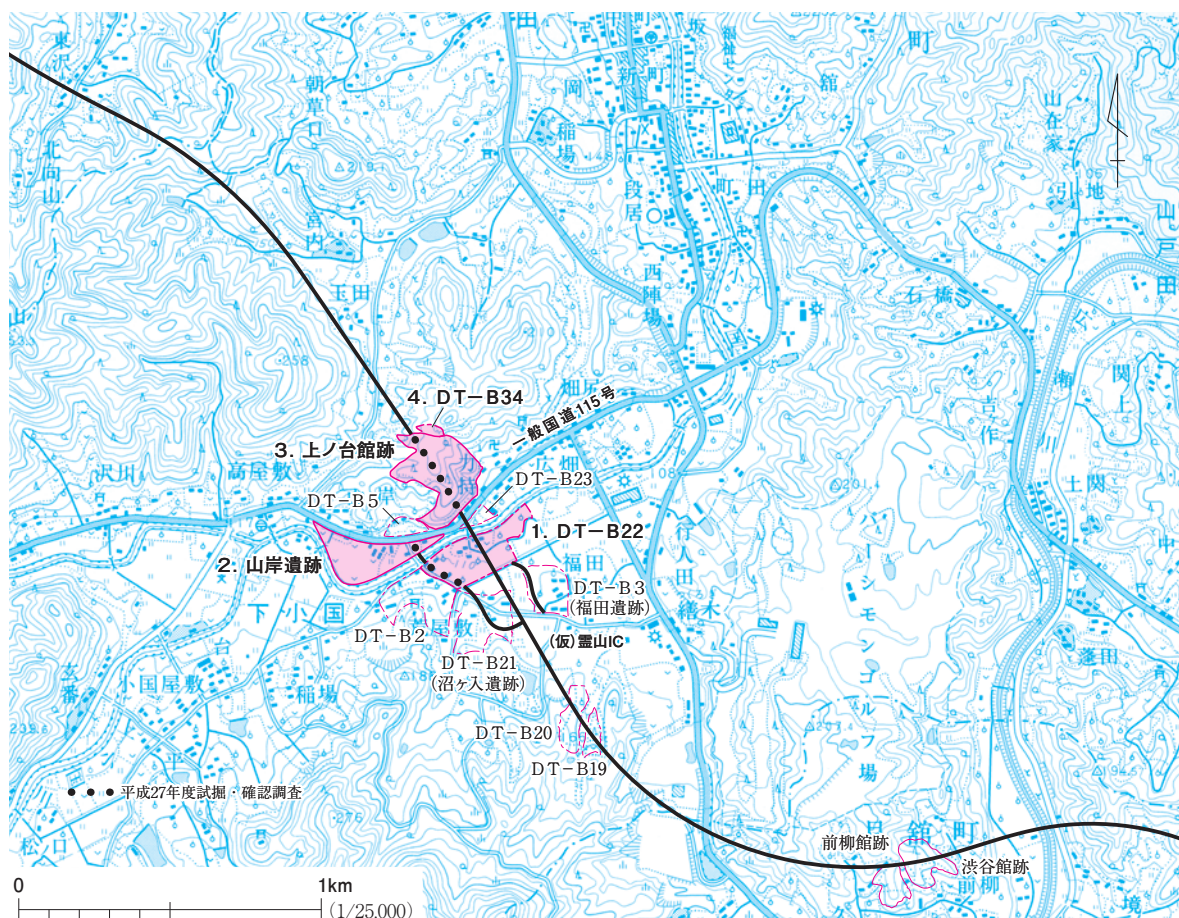


図7 伊達市の遺跡(1)

布(表面)調査において、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。小国川右岸の低位段丘に立地し、現況は宅地・果樹園・畑である。

本年度の試掘調査は、工区内の19,000㎡を対象に、トレンチ44本を設定して行った。

[遺構・遺物] 24・28・29・37・38 Tでは縄文時代前・後・晩期の土器・石器を含む遺物包含層を確認した。このほかのトレンチでは表土直下が崖錐性堆積物の砂礫層であり、遺構は確認できなかった。52 Tから縄文土器が1点出土したが、器面が摩耗しており、調査箇所より離れた場所からの流れ込みであると判断した。

[ま と め] 試掘調査の結果、遺物包含層が分布する範囲(3,600㎡)については保存対象とし、下小国荒

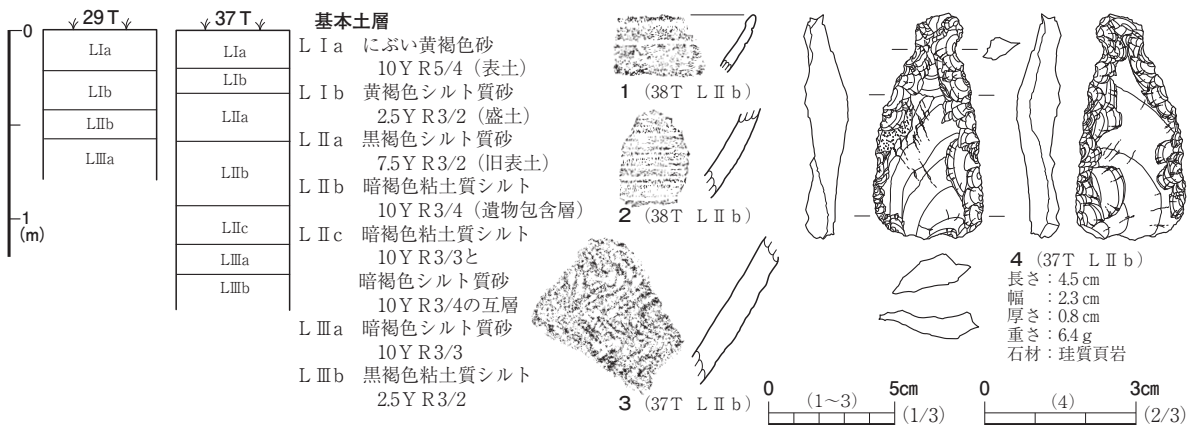
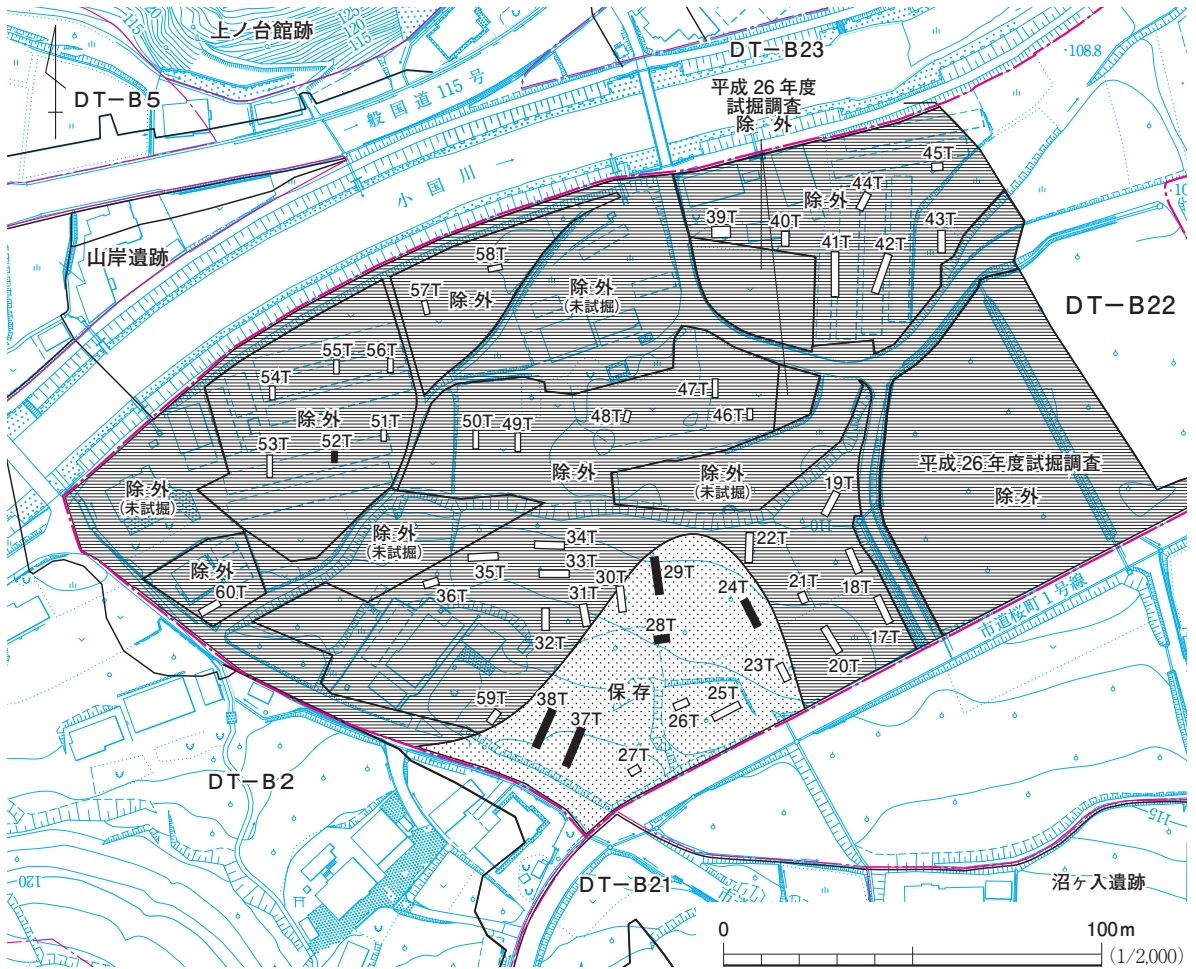


図8 DT-B22トレンチ配置図・土層柱状図・出土遺物

屋敷遺跡として登録した。なお、保存範囲については、掘削が及ぶ範囲や深度などを協議した結果、本発掘調査を行わず、工事立会として取扱うこととなった。それ以外の箇所については保存対象外とし、遺跡として扱わない。

また、本年度に試掘調査を実施できなかった箇所(8,300㎡)についても、周囲のトレンチの試掘結果により遺構・遺物の分布が予想できないことから、保存対象外と判断した。よって今回の調査をもって、DT-B22のすべての試掘調査は終了した。

表4 DT-B22トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
24T	遺物包含層(縄文)	25cm	○	縄文土器(晩期)
28T	遺物包含層(縄文)	30cm	○	縄文土器
29T	遺物包含層(縄文)	50cm	○	縄文土器
37T	遺物包含層(縄文)	35cm	○	縄文土器(前期)、石器
38T	遺物包含層(縄文)	45cm	○	縄文土器(後・晩期)、石器
52T				縄文土器

2. 山岸遺跡(第2次調査)

所在地 伊達市霊山町下小国字山岸、字清水

調査対象面積 1,300㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

[概要] 山岸遺跡は、平成18年度の分布(表面)調査で、縄文土器や土師器などが採取されたことから埋蔵文化財包蔵地として登録した遺跡である(『福島県内遺跡分布調査報告14』)。その後、平成26年度に工区内の400㎡を対象に確認調査(第1次)を実施したが、保存対象外(慎重工事)と判断された。

本遺跡は小国川右岸の低位段丘に立地し、現況は宅地・畑である。本年度の確認調査は、工区内の1,300㎡を対象に、トレンチ3本を設定して行った。

[まとめ] 確認調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって本年度の確認調査範囲は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。また確認調査が実施できなかった残る300㎡の範囲については、既存道路に隣接するなど狭小であるため、工事立会の措置とした。よって今回の調査をもって、工区内における山岸遺跡のすべての確認調査は終了した。

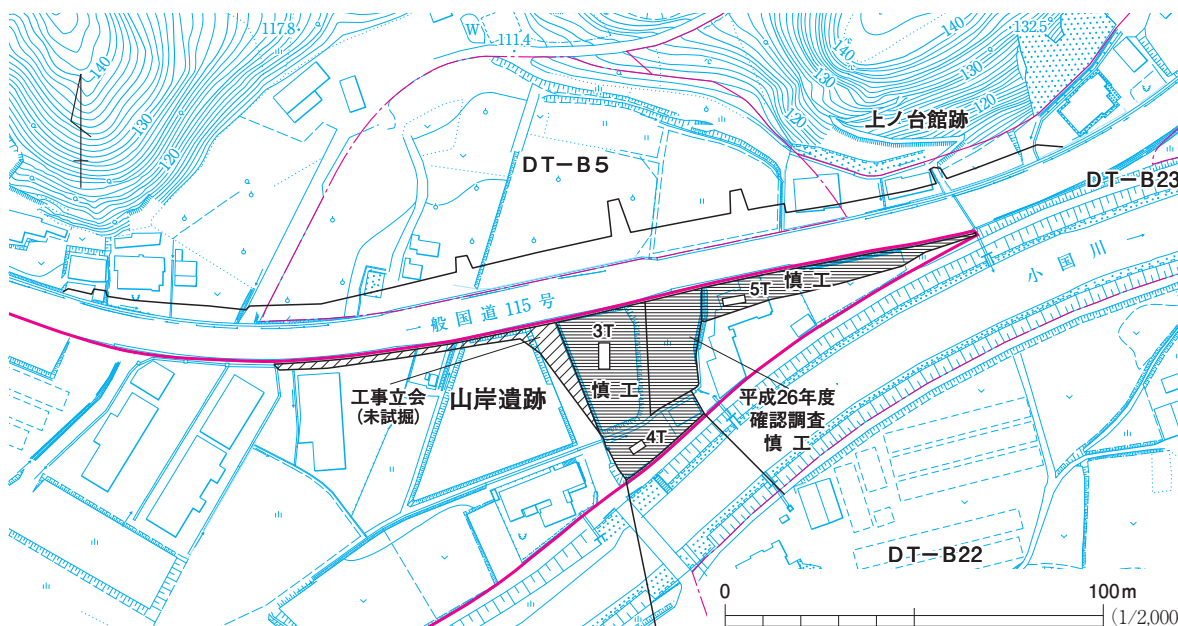


図9 山岸遺跡トレンチ配置図

3. 上ノ台館跡 (測量調査)

所在地 伊達市霊山町下小国字上ノ台

調査対象面積 27,900㎡

保存面積 11,900㎡

検出遺構 溝跡・平場

出土遺物 なし

[概要] 上ノ台館跡は平成24年度に実施した分布(表面)調査で平場などが発見されたことから、新規に登録した埋蔵文化財包蔵地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。小国川に面した標高180mほどの丘陵にあり、国道115号(中村街道)に面した南側は切り立った崖、北側は比較的緩やかな斜面が続く。周囲には懸田城跡のほか、小国城跡・愛宕大館跡・明正寺館跡などの中世城館が街道筋に沿って点在している。

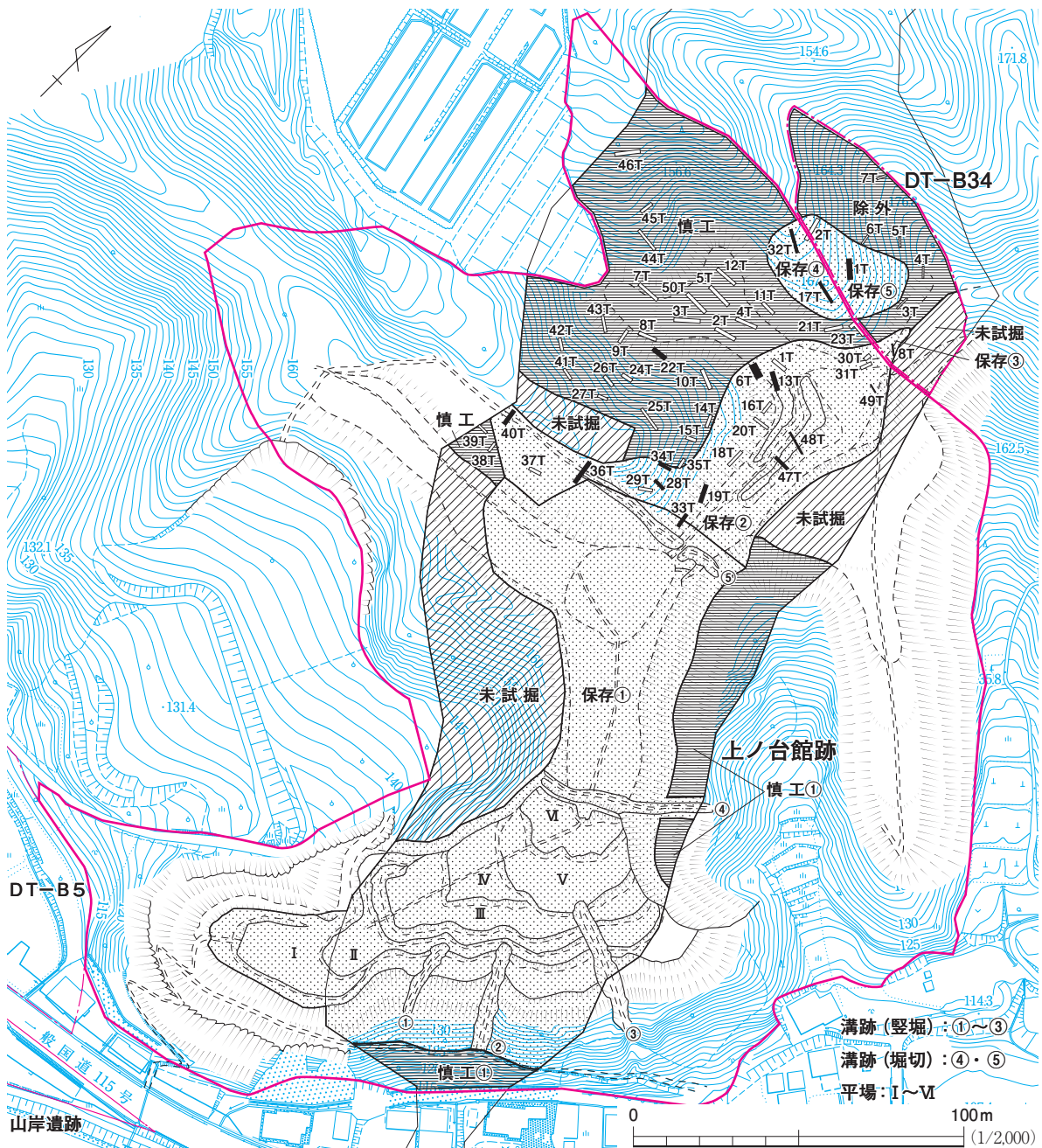


図10 上ノ台館跡・DT-B34トレンチ配置図・縄張り図

本遺跡のほぼ全域で相馬福島道路建設事業が予定されたため、27,900㎡を対象に簡易測量調査(縄張り調査)を実施し、人工改変地形の広がり把握することに努めた。測量は原則、基準点からの歩測や方位磁石や巻尺を用いた簡易測量によるが、基準となる測量点については光波測距儀を用いて補正を行った。



[遺構・遺物] 測量調査の結果、丘陵の南から北東にかけての尾根部には、標高の低い方から順に

3 上ノ台館跡 堀切④近景(北東から)

平場Ⅰから平場Ⅵが構築され、その縁辺に高低差2mほどの人工的な急傾斜面(切岸)がめぐっていることがわかった。この急傾斜面は街道筋に面した南側にのみ顕著で、3段ほどの帯状の平坦面(腰曲輪)がめぐる。この平坦面は3条の溝跡(竪堀①～③)により区切られている。

平場Ⅰ・Ⅱは現在、神社の境内として整備されており詳細は不明である。しかしながら平場Ⅱは明治期に作成された地籍図ではその範囲を一筆として区分していることから、平場Ⅱの造成が近代以降の改変ではないと考えている。なお、平場Ⅰの縁辺には帯状の平坦面がめぐる。

平場Ⅲ～Ⅴは尾根部では緩傾斜で、その境界の高低差もほとんどない。南側の斜面部では明確な急傾斜面が認められる。平場Ⅵの北縁は土塁が築かれ、その高低差は約2mである。土塁の中央はコの字状に張り出していて、2m四方ほどの空間がある。その北側は尾根を断ち切る溝跡(堀切④：写真3)がある。

それより北は緩やかな尾根斜面が続き、最高所に至る。最高所は縁辺にわずかな段差があるが、明確な平場はない。北に伸びる尾根には溝跡(堀切⑤)があり、土橋で外部と通じている。この脇にも方形の張り出しが認められるが、顕著ではない。最高所から西に伸びる尾根には城館関連遺構は認められなかったが、尾根の西端部で弥生土器を採取しており、確認調査を実施する必要がある。また、北に伸びる尾根では山道がL字状に屈曲している。

[まとめ] 測量調査の結果、中世城館に関連する遺構が認められた範囲の11,900㎡(保存①)については、保存をする必要がある。それ以外の14,000㎡の範囲では、確認調査を実施し、判断する必要がある。このほかの急傾斜地2,000㎡(慎工①)については、確認調査及び本発掘調査は困難であると判断し、今後は詳細な地形測量の実施にとどめ、慎重工事として措置する。

4. ^{かみのだい}上ノ台館跡(確認調査)

調査対象面積 9,400㎡

保存面積 3,700㎡

検出遺構 溝跡・平場

出土遺物 縄文土器

[概要] 測量調査の結果、工区内の14,000㎡が確認調査の対象範囲とされた。本年度は条件整備が整った9,400㎡の確認調査を実施した。なお、伐採前の山林内での調査となったため、



4 上ノ台館跡 36T遺構検出状況(南から)

トレンチの掘削は作業員のみで行った。設定したトレンチは50本である。

[遺構・遺物] 13・19 Tでは岩片を含む盛土層を確認した。47・48 Tでは尾根の片側に盛土層が確認できた。これらは、北に伸びる道跡の造成に伴うものと判断され、尾根頂部の手前でL字状に屈曲している。36 Tでは溝跡(堀切)を確認した。遺構の底面は基盤岩を掘り込んでいる。40 Tでも溝跡を確認したが、36 Tのそれと連続するものかはわからない。

6 Tでは土坑、22 Tでは小穴をそれぞれ1基確認した。なお、22 Tのピットについては周囲のトレンチで同様の遺構が確認できなかったことから、記録保存の措置を行った。このほか、沢頭部の28・34 Tでは

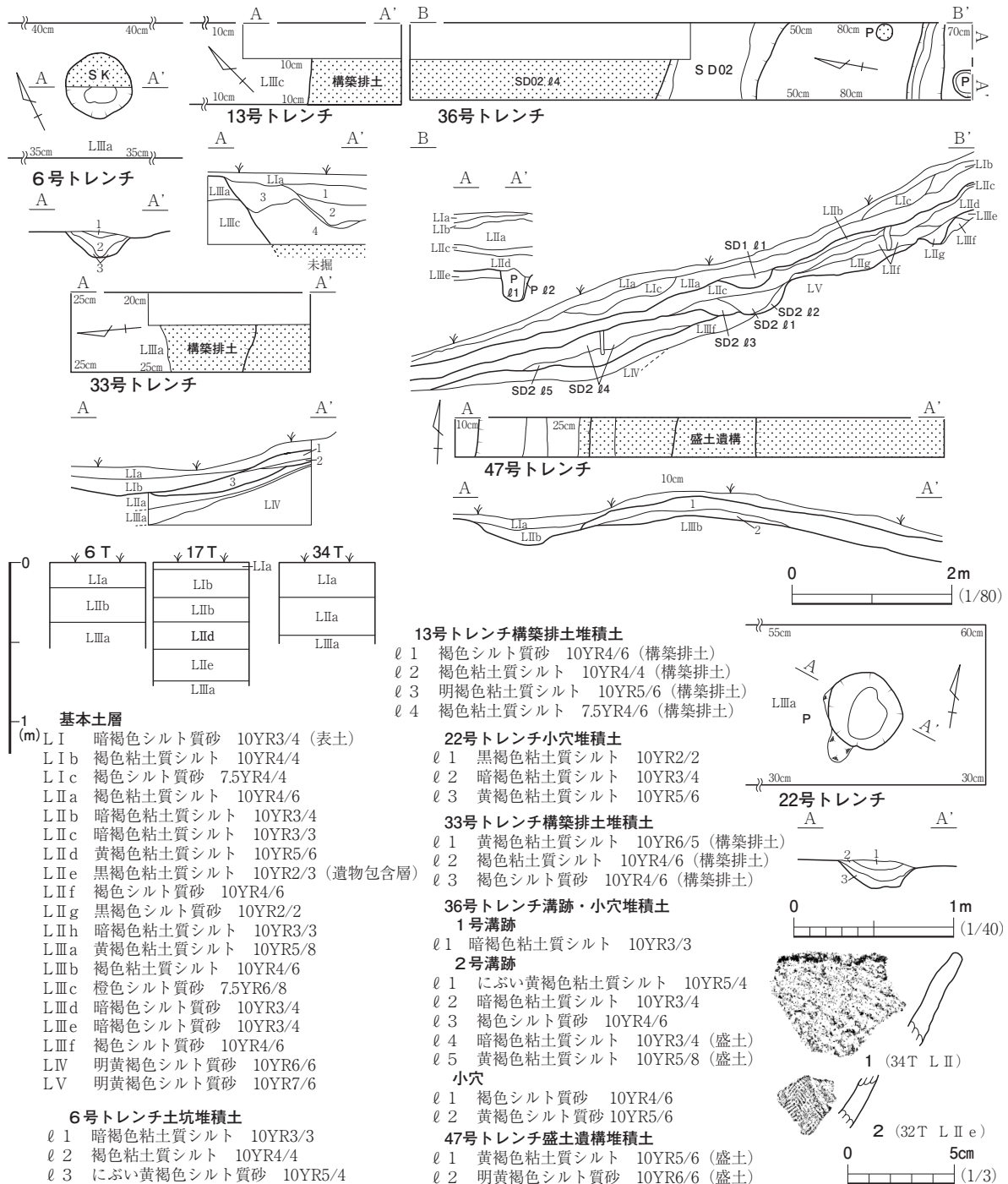


図11 上ノ台館跡検出遺構・土層柱状図・出土遺物

縄文土器片が微量出土した。また、谷部の17・32 Tでは縄文時代後期の土器を含む遺物包含層を確認した。

[ま と め] 遺構を確認した尾根部を中心とした3,300㎡の範囲(保存②)については、保存の必要がある。本遺跡では測量調査で確定した保存面積11,900㎡を合せ、計15,200㎡の保存が必要である(さらにD T - B 34の保存面積100㎡(保存③)を加えると、上ノ台館跡では合計15,300㎡の保存が必要となる)。

また、谷部の17・32 T付近の400㎡の範囲(保存④)は、D T - B 34の保存範囲500㎡と合わせ、新たに上ノ台遺跡として登録した(D T - B 34の項を参照)。これ以外は保存の対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、本遺跡では計4,300㎡の未試掘範囲がある。

5. D T - B 34^{かみのだい}[上ノ台遺跡]

所在地 伊達市霊山町下小国字上ノ台

調査対象面積 1,900㎡

保存面積 600㎡

検出遺構 土坑・構築排土層

出土遺物 なし

[概要] 本年度の上ノ台館跡の確認調査において、北端部に設定したトレンチで縄文時代の遺物包含層を確認した。この層が北側に拡がること予想されたため、その範囲を新たに遺跡推定地D T - B 34として追加した。本年度の試掘調査は、条件整備の整った工区内の1,900㎡を対象に、トレンチ8本を設定して行った。

[遺構・遺物] 1 Tで木炭と焼土を多量に含む土坑の一部を確認した。規模などから中世の遺構によくみられる開放窯タイプの木炭窯跡の可能性もある。2 Tでは遺物が出土していないが、上ノ台館跡の32 Tで確認した遺物包含層と同じ土層が拡がっていることが判明した。また、尾根部の8

表5 上ノ台館跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
6 T	土坑	40cm	○	縄文土器
13 T	構築排土層	10cm	○	
17 T	遺物包含層(縄文)	55cm		
19 T	構築排土	10cm	○	
22 T	土坑	50cm	○	
28 T				縄文土器
32 T	遺物包含層(縄文)	10cm		
33 T	構築排土	15cm	○	縄文土器
34 T				
36 T	溝跡、小穴	50cm	○	
40 T	溝跡	50cm	○	
47 T	盛土層	10cm	○	
48 T	盛土層	10cm	○	
49 T	盛土層	10cm	○	



5 DT-B34 1 T遺構検出状況(南西から)

表6 DT-B34トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
1 T	土坑	35cm	×	
8 T	構築排土層	10cm	○	

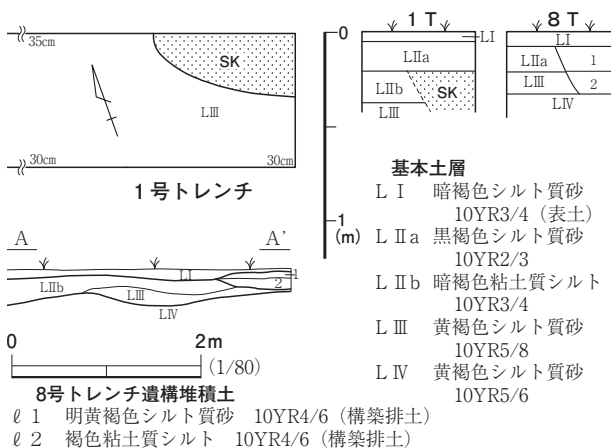


図12 DT-B34検出遺構・土層柱状図

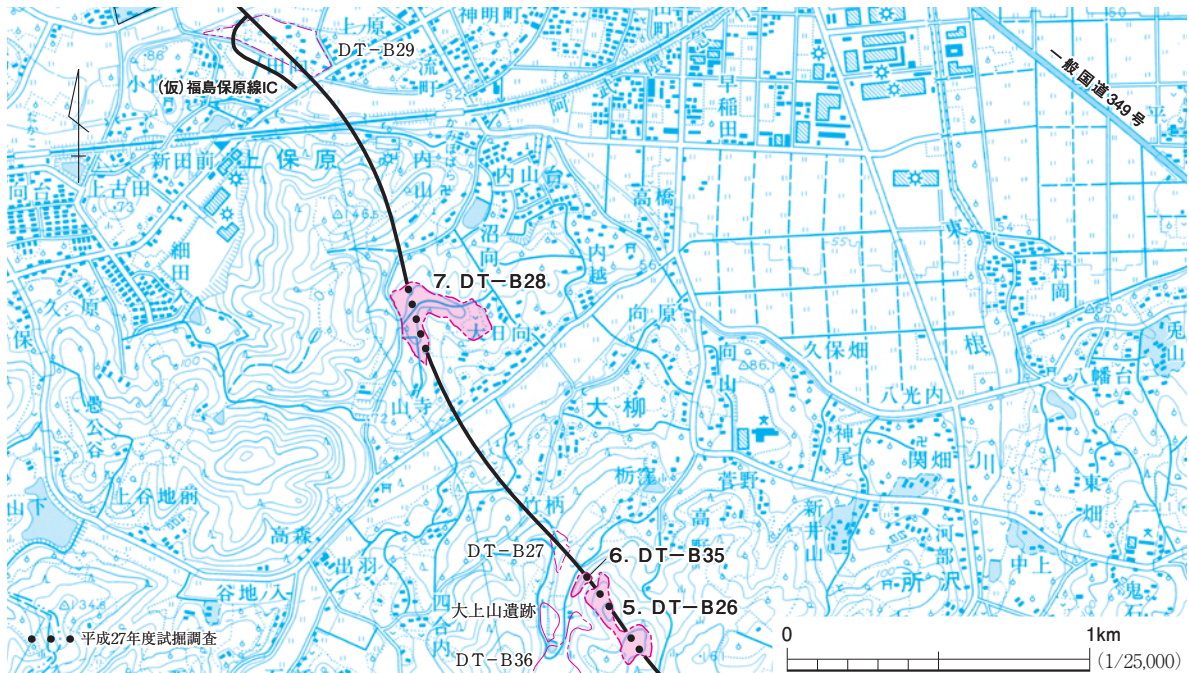


図13 伊達市の遺跡（2）

Tでは構築排土層を確認した。この層は、上ノ台館跡の47・48 Tで確認した道跡に伴うものと判断した。

[ま と め] 1・2 Tを中心とした500㎡の範囲(保存⑤)については、保存の必要がある。先に設定した上ノ台館跡の17・32 T付近の400㎡の範囲を合せた900㎡の範囲を新たに縄文時代と中世の遺跡である上ノ台遺跡として登録した。一方、尾根部の8 T付近の100㎡の範囲(保存③)は、上ノ台館跡の保存範囲に含める。それ以外の1,300㎡の範囲については保存対象外とし、遺跡として扱わない。また、東側の斜面に400㎡の未試掘範囲がある。なお、上ノ台遺跡の900㎡の保存範囲は、平成27年度に本発掘調査を実施した。

6. DT-B26

所在地 伊達市保原町大柳字栃窪入

調査対象面積 18,500㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

[概要] DT-B26は、平成24年度の分布(表面)調査において、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。比高差50mほどの丘陵に立地し、現況は雑木を主体とする山林である。本年度の試掘調査は、工区内の18,500㎡を対象に、トレンチ50本を設定して行った。

[ま と め] 試掘調査の結果、遺構や遺物は確認できなかった。よって工区内調査範囲は、遺跡として扱わない。また今回の調査をもって、DT-B26のすべての調査は終了した。

7. DT-B35

所在地 伊達市保原町大柳字栃窪入

調査対象面積 1,400㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

[概要] DT-B35は本年度の分布(表面)調査において、新たに追加された遺跡推定地である(第3

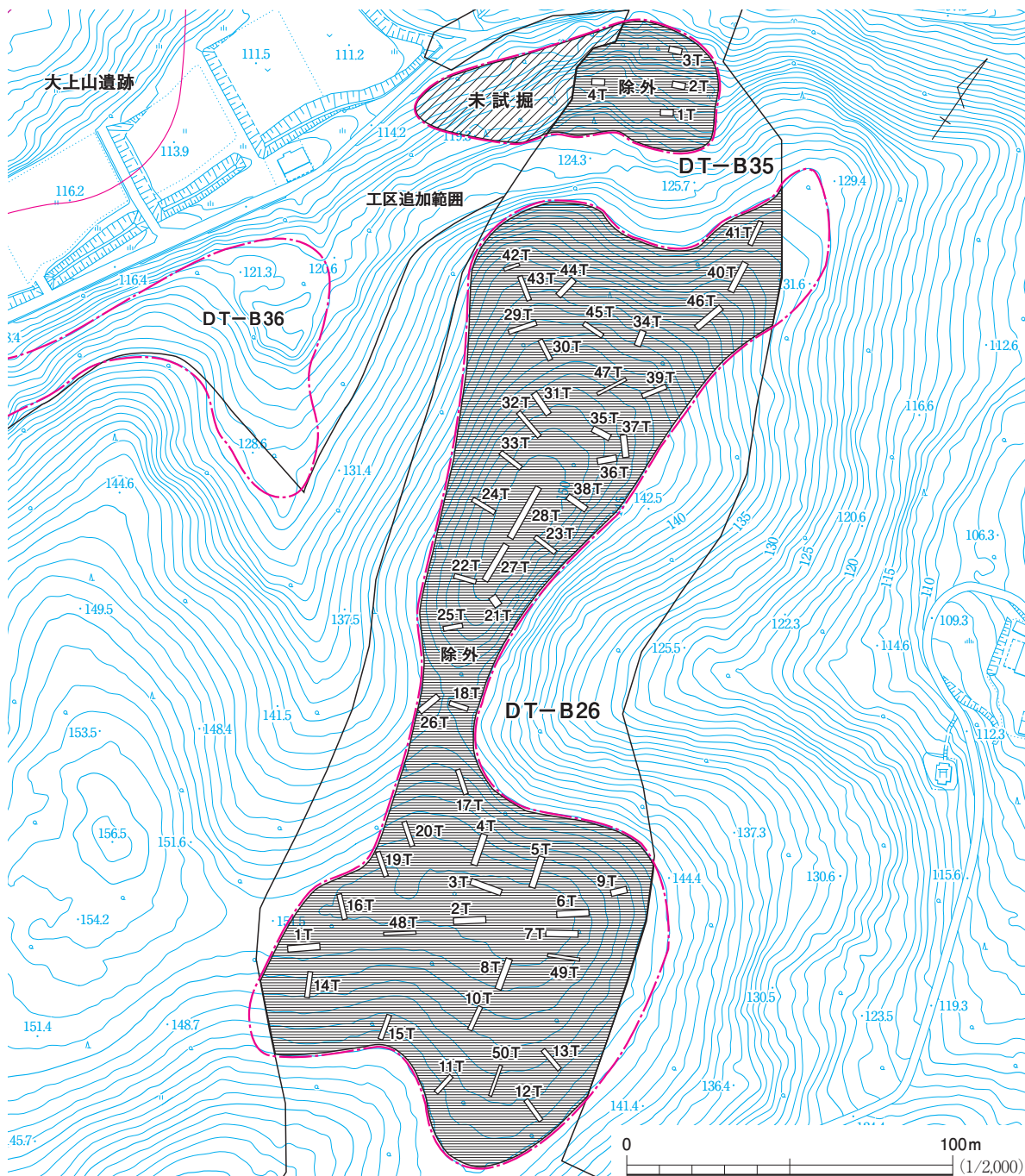


図14 DT-B26・B35トレンチ配置図

章参照)。DT-B26の丘陵北向き斜面に立地し、現況は雑木を主体とする山林である。本年度の試掘調査は工区内の1,400㎡を対象にトレンチ4本を設定して行った。

[ま と め] 試掘調査の結果、遺構や遺物は確認できなかった。よって工区内調査範囲は、遺跡として扱わない。なお、本遺跡推定地では1,100㎡の未試掘範囲がある。

8. DT-B28(第2次調査)

所在地 伊達市保原町上保原字将帰坂

調査対象面積 7,900㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

【概要】 DT-B28は、平成24年度の分布(表面)調査において、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。標高95～104mの丘陵頂部に立地し、現況は果樹園・畑・荒地である。本年度の試掘調査は、工区内の7,900㎡を対象に、トレンチ24本を設定して行った。

【まとめ】 試掘調査の結果、遺構や遺物は確認できなかった。よって工区内調査範囲は、遺跡として扱わない。また、条件整備の整わなかった範囲(300㎡)については、今回調査した周辺のトレンチの状況から、保存の対象外(調査不要)であると判断した。

なお、今回の調査をもって、DT-B28のすべての調査は終了した。

(3) 桑折町の遺跡

1. QR-B2 かわはらだ [川原田遺跡]

所在地 桑折町松原字川原田、字姫松、字沢田、成田字半五郎

調査対象面積 14,600㎡

保存面積 3,700㎡

検出遺構 溝跡・土坑・遺物包含層

出土遺物 縄文土器・須恵器・土師器・石器

【概要】 QR-B2は、平成24年度の分布(表面)調査において、縄文土器や石器が採取されたことから、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。江戸時代に開削された西根上堰と下堰の間の、標高80mほどの低位段丘に立地する。現況は大部分が水田で、一部が宅地となっている。

本年度の試掘調査は、工区内の14,600㎡を対象に、トレンチ53本を設定して行った。

【遺構・遺物】 20～25Tでは縄文時代前期の土

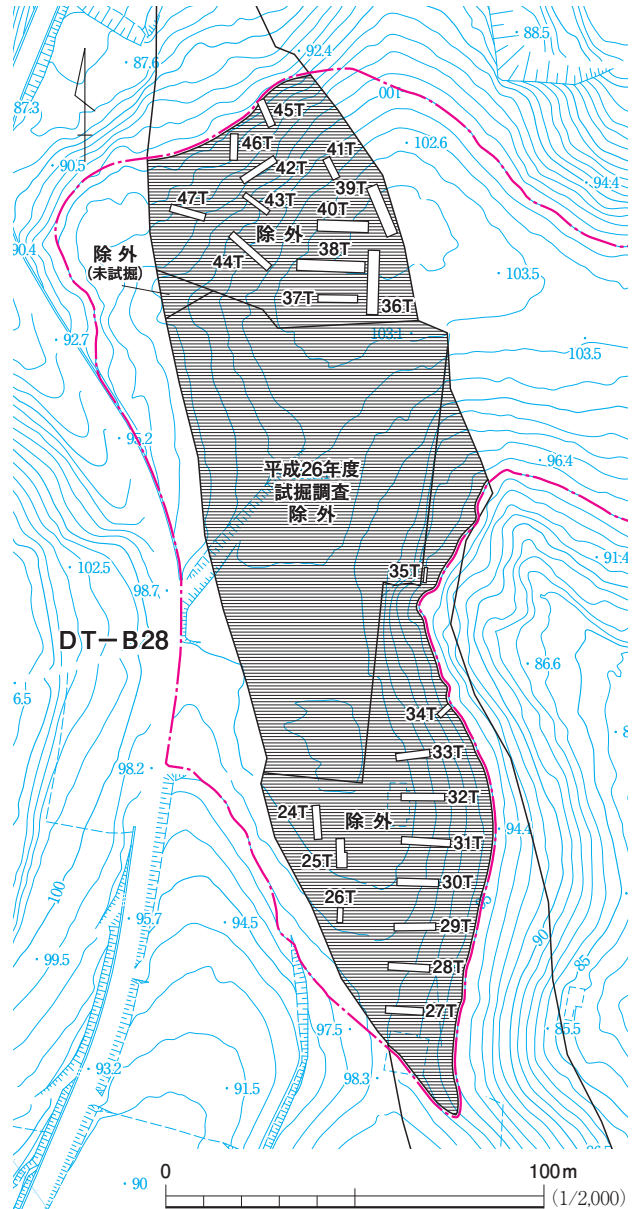
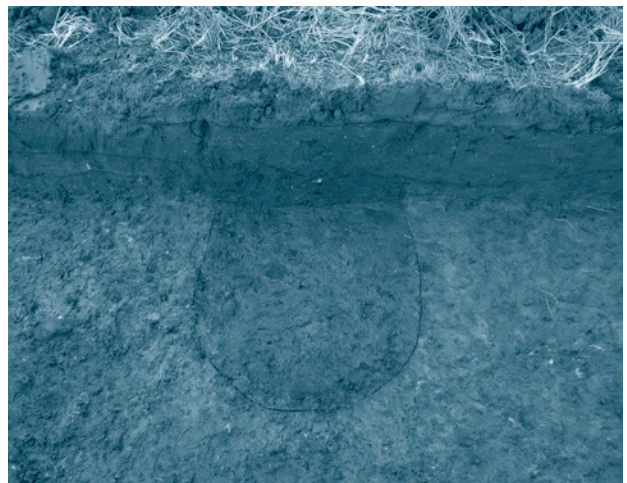


図15 DT-B28トレンチ配置図



6 QR-B2 21T遺構検出状況(南から)

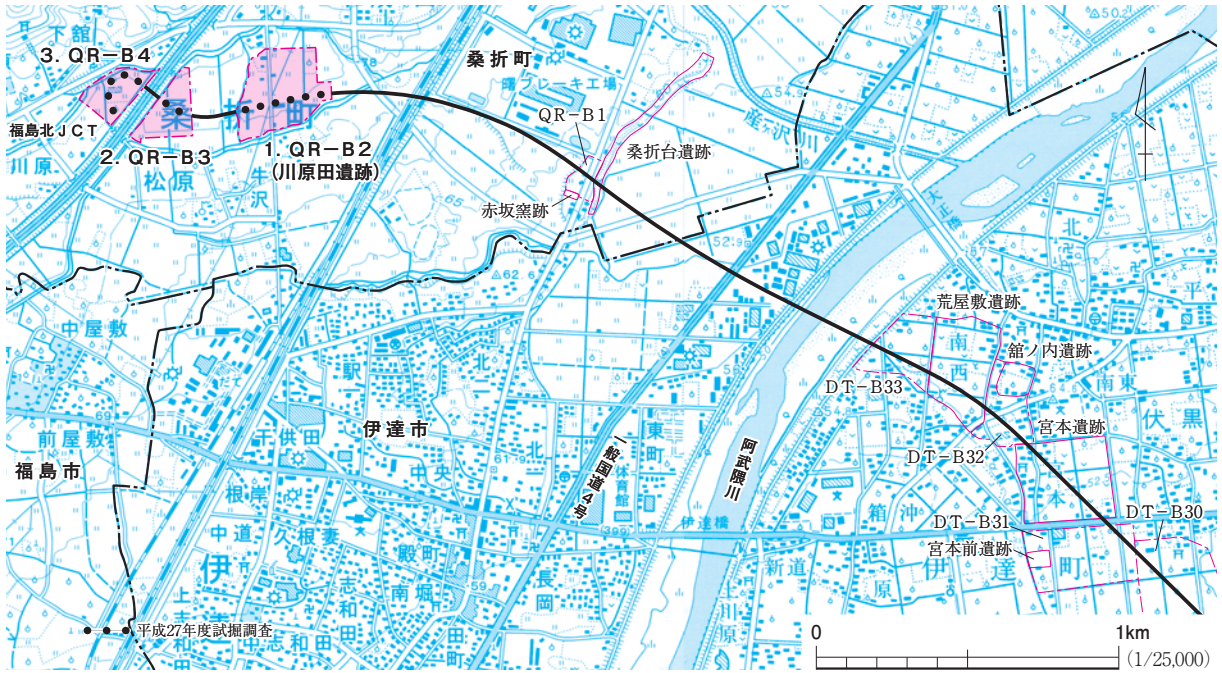


図16 桑折町の遺跡

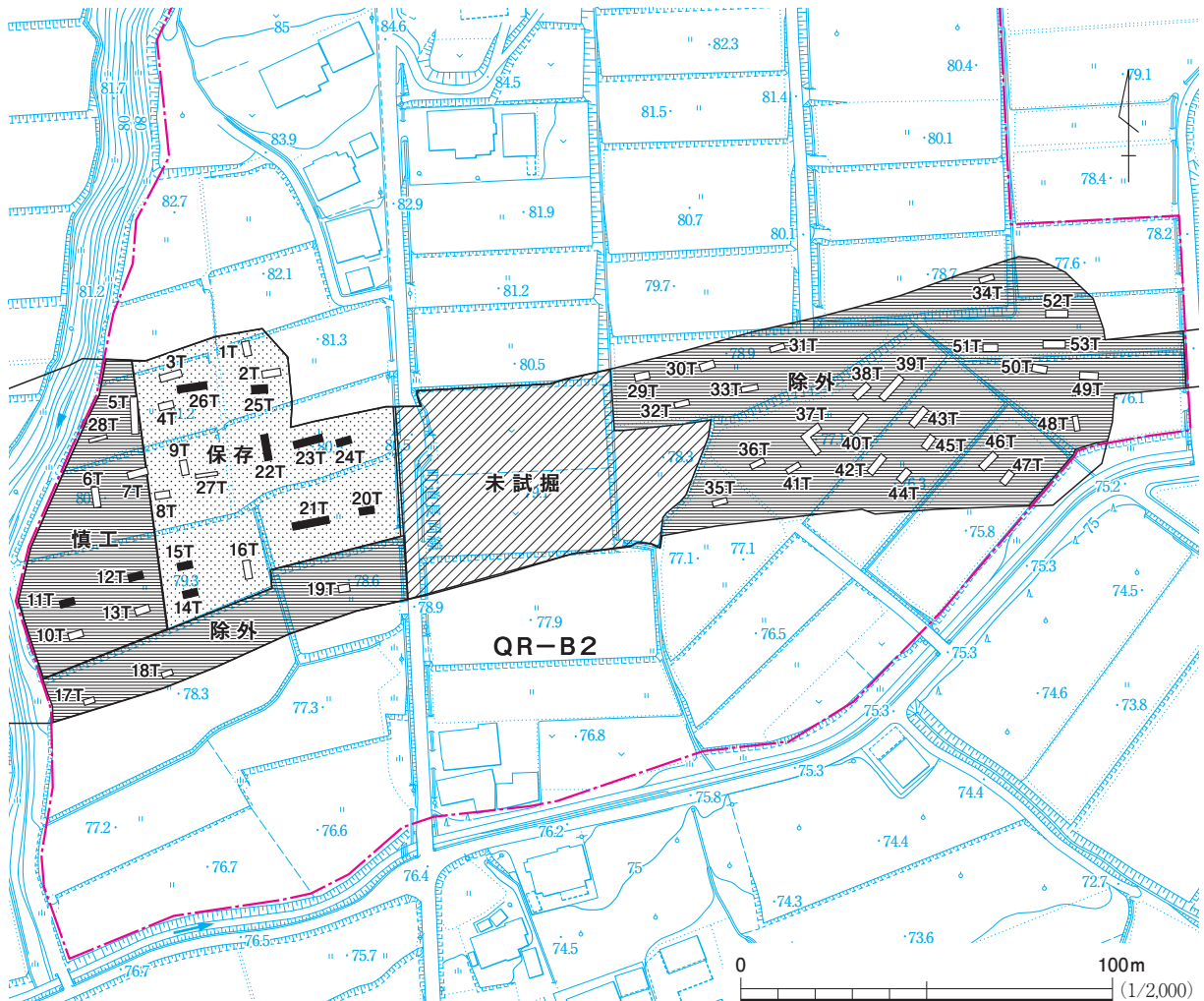


図17 QR-B2トレンチ配置図

器と平安時代の土師器を含む遺物包含層を確認した。21・23Tでは土坑や小穴を、14・15Tでは溝跡を確認したが、帰属時期は不明である。

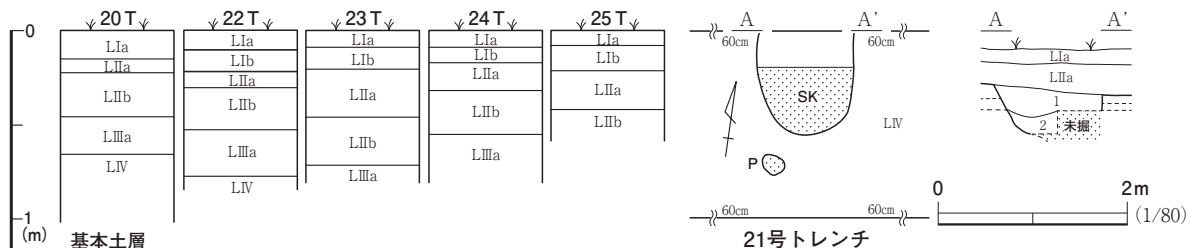
このほかのトレンチで少量の須恵器や土師器が出土したが、器面の摩滅が著しく、原位置を保っていないと判断した。

[ま と め] 試掘調査の結果、遺物包含層や溝跡が分布する範囲(3,700㎡)については、保存の必要がある。この範囲を含む、町道長岡線と用水路で挟まれた範囲を新たに川原田遺跡として登録する。包蔵地範囲の内、用水路寄りの箇所は保存対象外とし、慎重工事の措置とする。

それ以外の箇所については保存対象外とし、遺跡として扱わない。なお、本遺跡推定地では3,900㎡の未試掘範囲がある。

表7 QR-B2トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
11T	遺物包含層	20cm		須恵器(平安)
12T				土師器(平安)
20T				土師器(平安)
21T	土坑、小穴、遺物包含層	40cm	○	縄文土器(前期)、土師器(平安)、須恵器(平安)
22T	遺物包含層	30cm		土師器(平安)、須恵器(平安)
23T	小穴、遺物包含層	80cm	×	土師器(平安)、石器
24T	遺物包含層	35cm		土師器(平安)
25T	遺物包含層	45cm		縄文土器、土師器(平安)、須恵器(平安)、石器
26T	遺物包含層	35cm		土師器(平安)



基本土層

- L I a 褐色シルト質砂 10YR4/4 (耕作土)
- L I b にぶい黄褐色粘土 10YR4/3 (床土)
- L II a 黒褐色粘土 10YR3/2
- L II b 黒褐色粘土 10YR2/2 (遺物包含層)
- L III a 黒褐色砂質粘土 10YR3/2
- L III b 暗褐色砂質粘土 10YR3/3
- L IV 青黒砂質粘土 5BG2/1

21号トレンチ土坑堆積土
 ℓ 1 黒褐色粘土 10YR3/2
 ℓ 2 黒色粘土質砂 10YR2/1

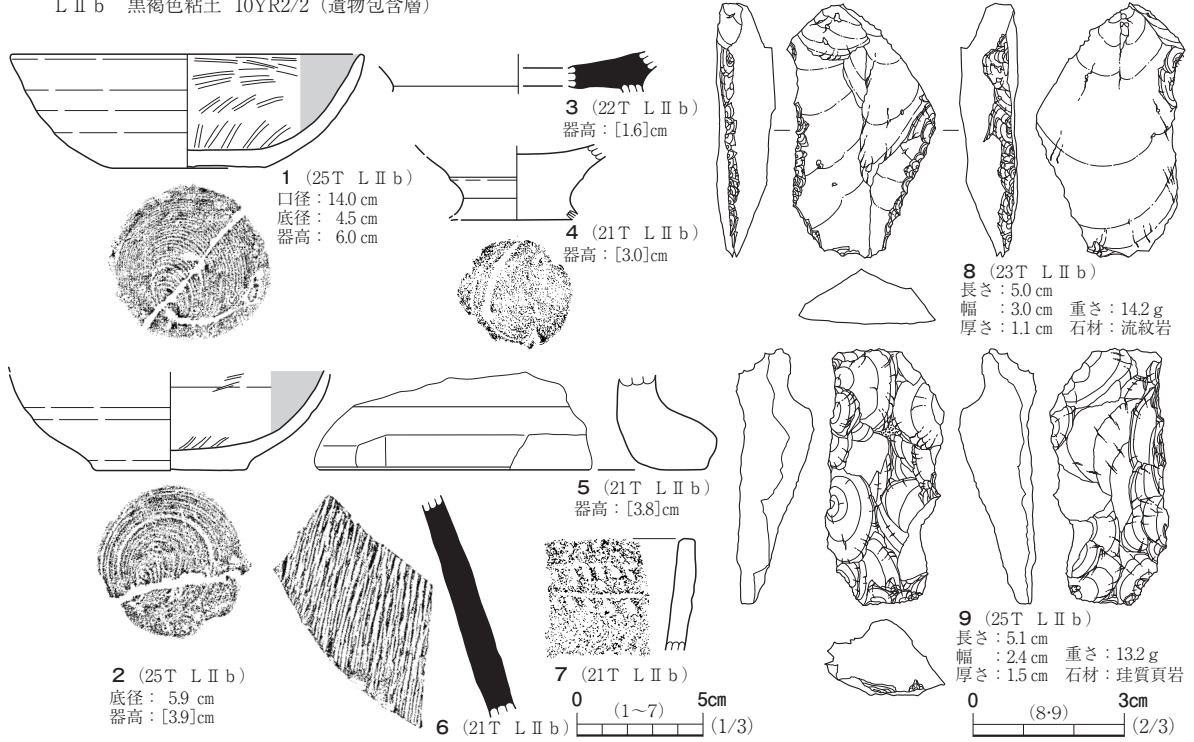


図18 QR-B2検出遺構・土層柱状図・出土遺物

2. QR-B3

所在地 桑折町松原字日照田

調査対象面積 10,800㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 須恵器・土師器

[概要] QR-B3は、平成24年度の分布(表面)調査において、土師器が採取されたことから、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。江戸時代に開削された西根上堰と下堰の間の、標高85mほどの低位段丘に立地する。現況は大部分がほ場整備の完了した水田で、一部が果樹園となっている。本年度の試掘調査は、工区内の10,800㎡を対象に、トレンチ31本を設定して行った。

[遺構・遺物] 5・9Tで須恵器や土師器が出土したが、器面の摩滅が著しく、調査箇所より離れた場所からの流れ込みであると判断した。遺構は確認できず、各トレンチの土層は、表土直下でグライ化したシルトと砂礫の互層(水成堆積層)である。

[まとめ] 試掘調査の結果、遺構は確認できず、出土遺物は原位置を保っていなかった。よって工区内調査範囲は、遺跡として扱わない。なお、本遺跡推定地では9,700㎡の未試掘範囲がある。

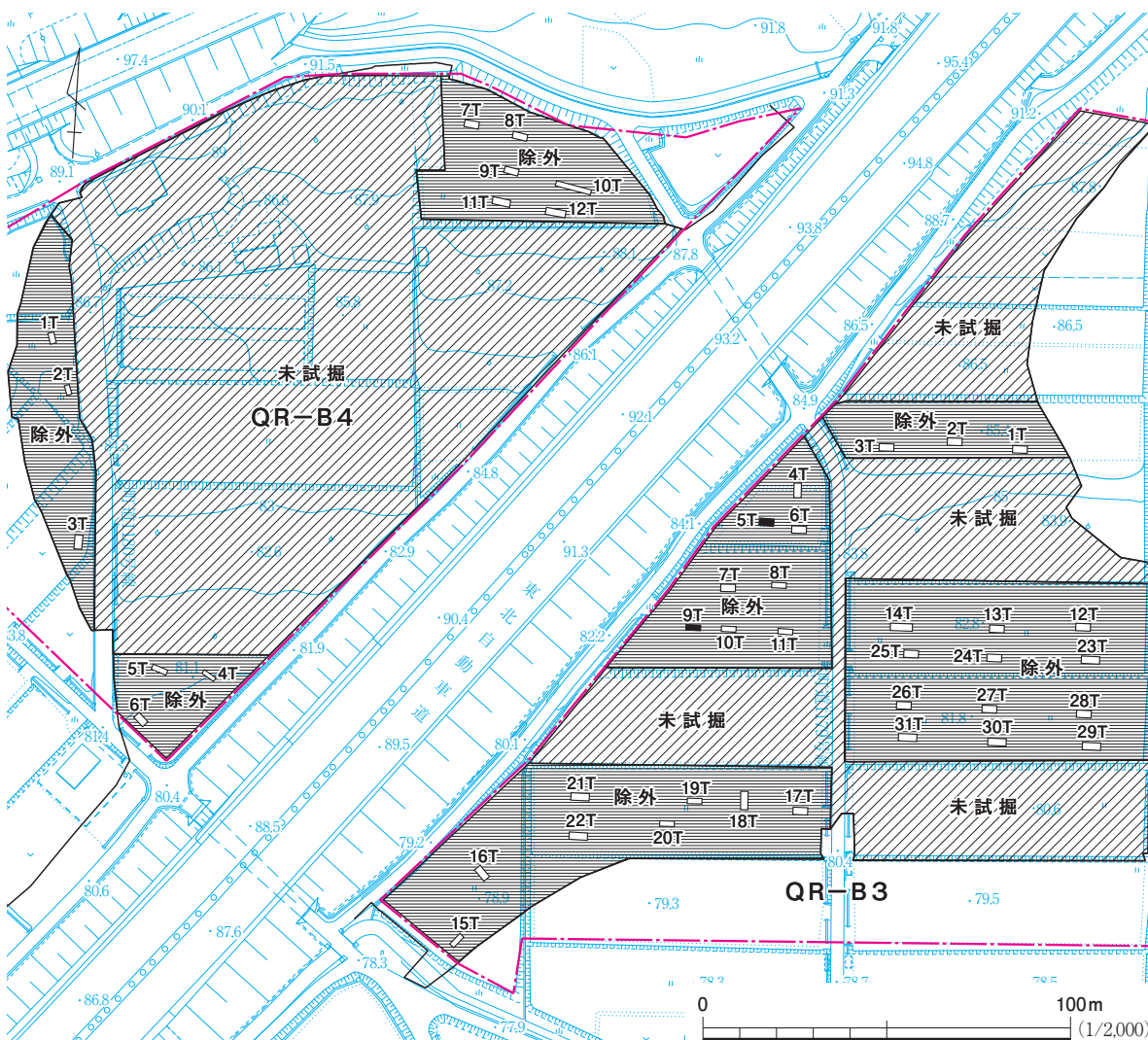


図19 QR-B3・B4トレンチ配置図

3. QR-B4

所在地 桑折町松原字館ノ前

調査対象面積 3,700㎡ **保存面積** 0㎡ **検出遺構** なし **出土遺物** なし

概要 QR-B4は、平成24年度の分布(表面)調査において、縄文土器や土器器が採取されたことから、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。江戸時代に開削された西根上堰と下堰の間の、標高85mほどの低位段丘に立地する。現況はほぼ場整備の完了した水田と果樹園、一部が宅地である。本年度の試掘調査は、工区内の3,700㎡を対象に、トレンチ12本を設定して行った。

まとめ 試掘調査の結果、遺構や遺物は確認できなかった。よって工区内調査範囲は、遺跡として扱わない。なお、本遺跡推定地では16,600㎡の未試掘範囲がある。

第2節 地域高規格道路(会津縦貫南道路)建設予定地

会津縦貫南道路は、会津地方の南北軸となる国道121号の機能を強化することにより、地域の活性化を図ることを目的に計画が進められている自動車専用道路である。会津若松市から南会津郡下郷町を経て、南会津郡南会津町に至る総延長約50kmの地域高規格道路で、将来的には北は山形県米沢市と、南は栃木県日光市と結ばれる計画となっている。福島県が事業主体となり、平成14年度に小沼崎バイパス1.5km、平成19年度には湯野上バイパス8.3kmが一般国道改築事業として着手された。このうち、湯野上バイパスは、平成24年度から国土交通省の直轄権限代行事業として進められている。

会津縦貫南道路に関連する埋蔵文化財の調査は、平成18・19年度に小沼崎・湯野上バイパスの約9.8kmの分布(表面)調査を実施し、12箇所の遺跡及び遺跡推定地を確認した(『福島県内遺跡分布調査報告13・14』)。平成24年度は下郷町の栗林遺跡で確認調査を実施し(『福島県内遺跡分布調査報告20』)、平成27年度は同遺跡で本発掘調査を行っている。平成26年度はCG-B13で試掘調査を実施している(『福島県内遺跡分布調査報告22』)。

本節は平成27年度に会津縦貫南道路の予定路線内で実施した、計4箇所の遺跡・遺跡推定地の試掘・確認調査の報告である。

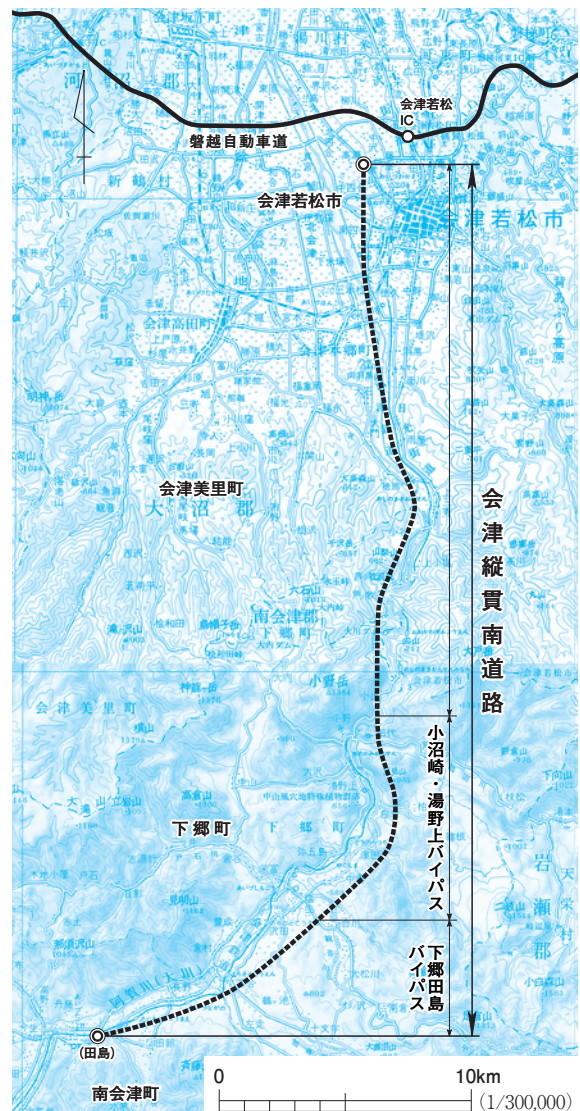


図20 地域高規格道路(会津縦貫南道路)位置図

(1) 下郷町の遺跡

1. CG-B13(第2・3次調査)

所在地 下郷町高隋字下居平乙

調査対象面積 2,800㎡

保存面積 150㎡

検出遺構 土坑

出土遺物 縄文土器

[概要] CG-B13は、平成19年度の分布(表面)調査において、田代遺跡の隣接地として、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告14』)。阿賀川の支流のひとつである鶴沼川右岸

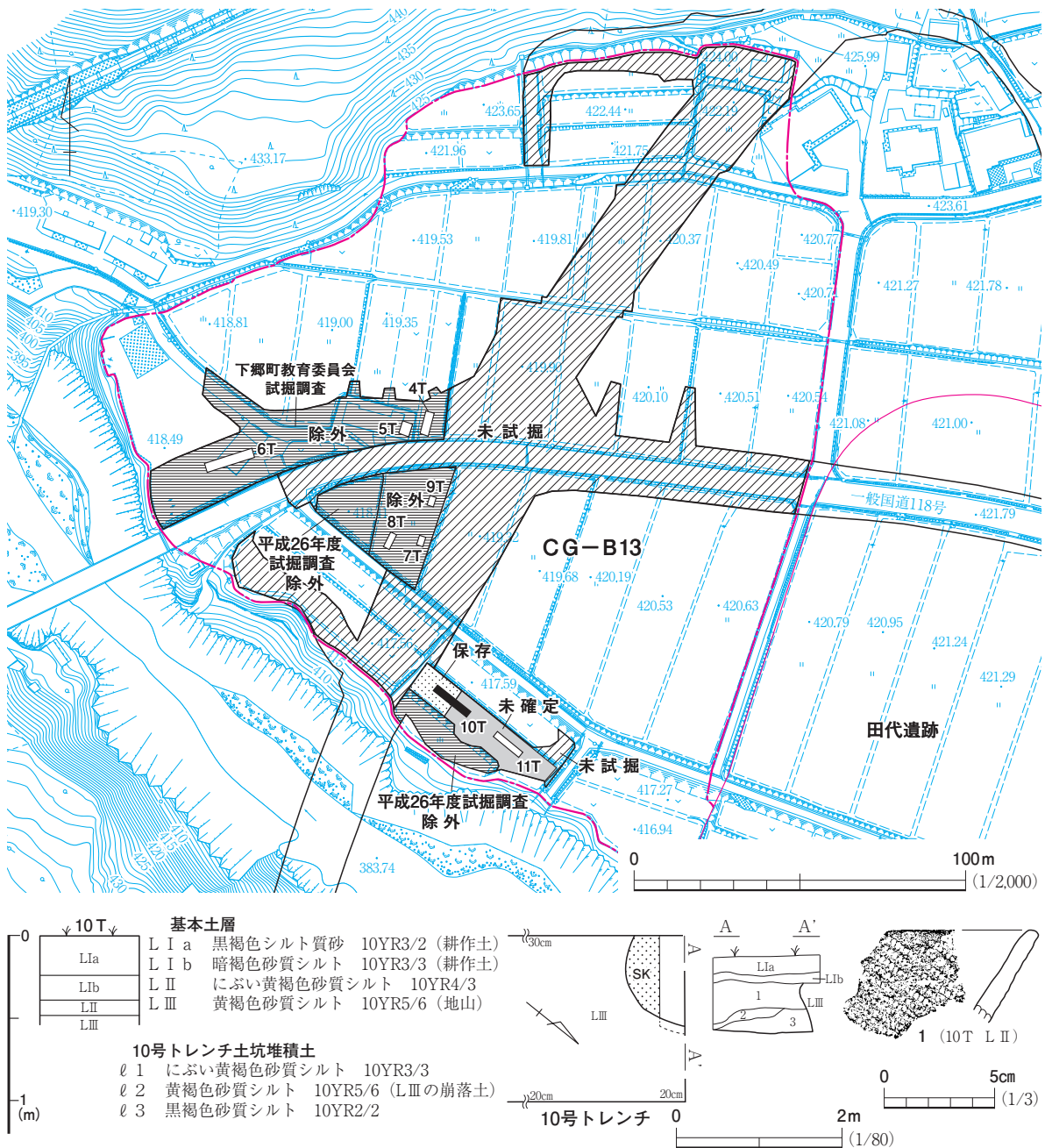


図22 CG-B13トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図・出土遺物

の低位段丘に立地し、現況は大部分がは場整備の完了した水田である。

本年度の試掘調査は、下郷町教育委員会が工区内の1,600㎡を対象にトレンチ3本を(4～6T；第2次調査)、福島県教育委員会が工区内の1,200㎡を対象にトレンチ5本を(7～11T；第3次調査)を設定して行った。ここではこれらの調査結果をまとめて報告する。

【遺構・遺物】 10Tでは縄文時代後期の土器と土坑1基を確認した。このほかのトレンチでは、遺構や遺物は確認できなかった。

【ま と め】 試掘調査の結果、10Tの土坑が確認された範囲(150㎡)については、保存の必要

がある。今後、周囲の試掘調査の進捗を待って埋蔵文化財包蔵地台帳に登録する予定である。また、11Tの周辺については、周囲の試掘調査の結果を待って判断する必要があるため、保存範囲などの取扱いを未確定とする。

それ以外の箇所については保存対象外とし、遺跡として扱わない。なお、本遺跡推定地では8,600㎡の未試掘範囲がある。

2. ^{たきのいり} 瀧ノ入遺跡

所在地 下郷町白岩字瀧ノ入

調査対象面積 5,600㎡

保存面積 4,000㎡

検出遺構 土坑・遺物包含層

出土遺物 弥生土器

【概要】 瀧ノ入遺跡は平成4年に発見された周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、平成19年度の分布(表面)調査において包蔵地の範囲が拡がる事が確認され、台帳の変更をおこなった(『福島県内遺跡分布調査報告14』)。阿賀川の支流のひとつである隈川右岸の低位段丘に立地し、現況は畑・山林・荒地である。本年度の確認調査は、工区内の5,600㎡を対象にトレンチ23本を設定して行った。

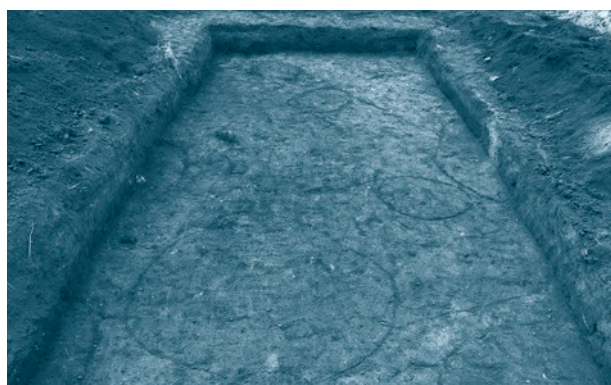
【遺構・遺物】 段丘平坦面に設定した1・2Tでは弥生時代中期の土器(川原町口式)を伴う遺物包含層(LⅡ)と土坑を確認した。土坑は、同時期に



7 CG-B13 10T遺構検出状況(東から)

表8 CG-B13トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
10T	土坑(縄文)	35cm	○	縄文土器



8 瀧ノ入遺跡 1T遺構検出状況(北から)

表9 瀧ノ入遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
1T	土坑、遺物包含層(弥生)	30cm	×	弥生土器(中期)、石器
2T	土坑、遺物包含層(弥生)	50cm	×	弥生土器(中期)、石器
3T	土坑	45cm	×	弥生土器(中期)
6T	土坑	50cm	×	弥生土器(中期)
7T	土坑、溝跡、小穴	30cm	×	弥生土器(中期)
8T	溝跡、小穴	40cm	×	石器
10T				弥生土器(中期)
15T				弥生土器(中期)
16T	土坑、小穴	120cm	×	弥生土器(中期)

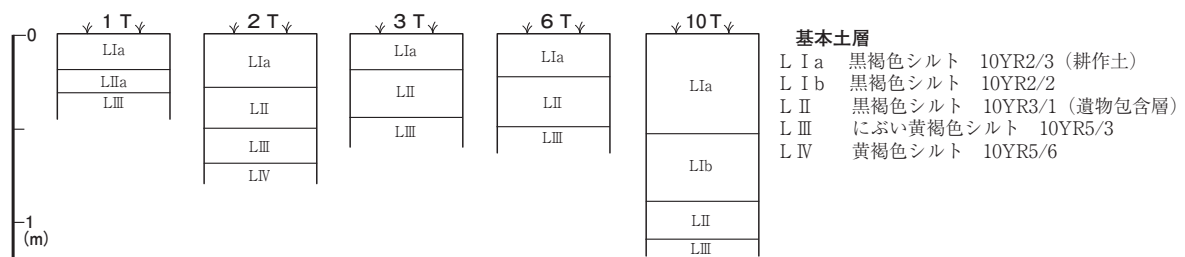
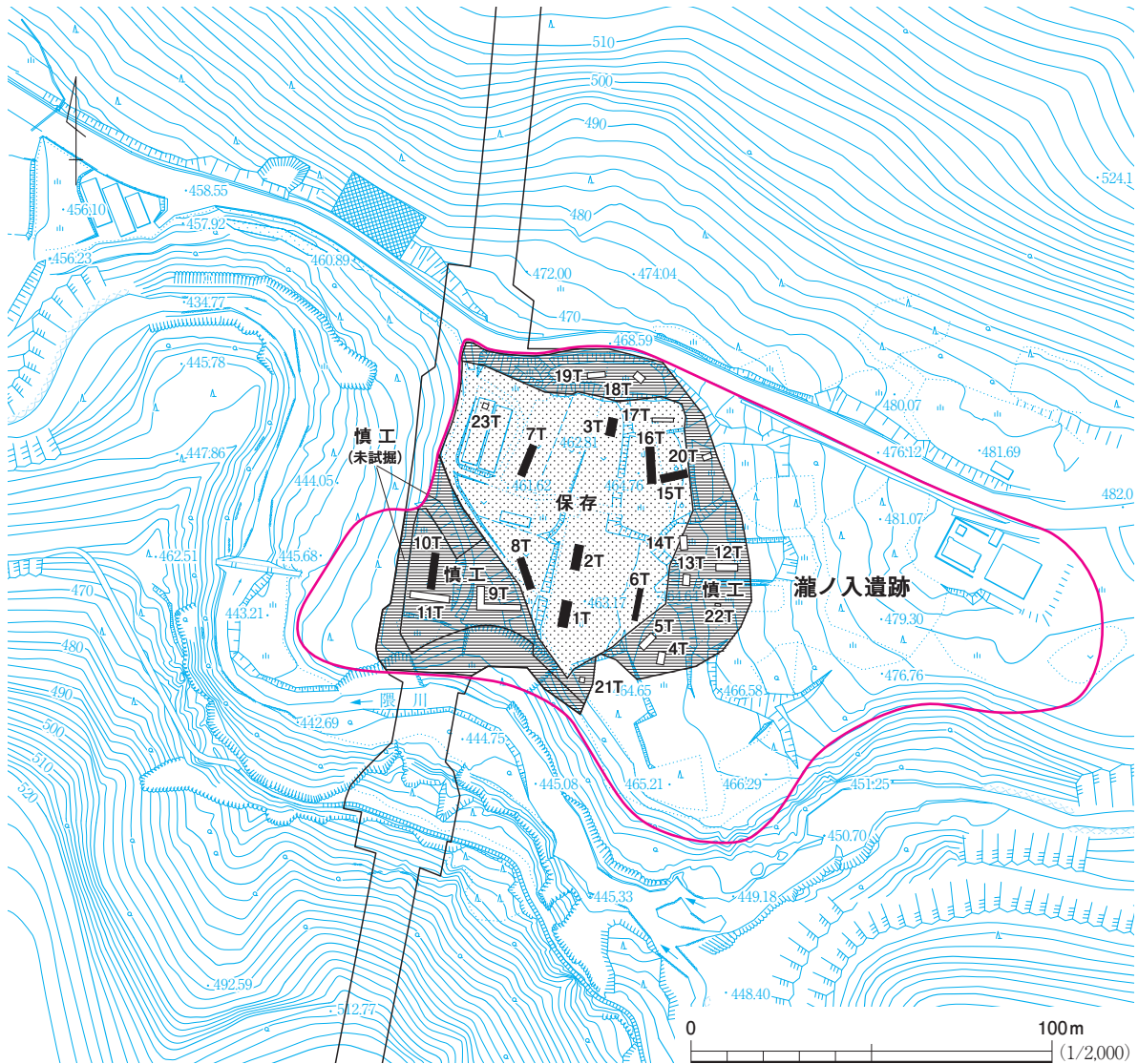


図23 瀧ノ入遺跡トレンチ配置図・土層柱状図

特徴的な遺構上位に土器を伴う土墳墓と判断した。このほかのトレンチでは、3・7・8 Tで土坑や溝跡を確認している。弥生土器は、1～3・6・7・15・16 Tから出土している。10 Tの表土(L I)から弥生土器が出土したが、遺物包含層は確認できなかった。斜面部に設定したトレンチから、遺構や遺物は確認できなかった。

[ま と め] 確認調査の結果、段丘平坦面の遺物包含層(L II)が確認された範囲(4,000㎡)については、保存の必要がある。特に1・2・6 T付近については、弥生時代の遺構が濃密に分布している可能性が高い。それ以外の箇所については保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

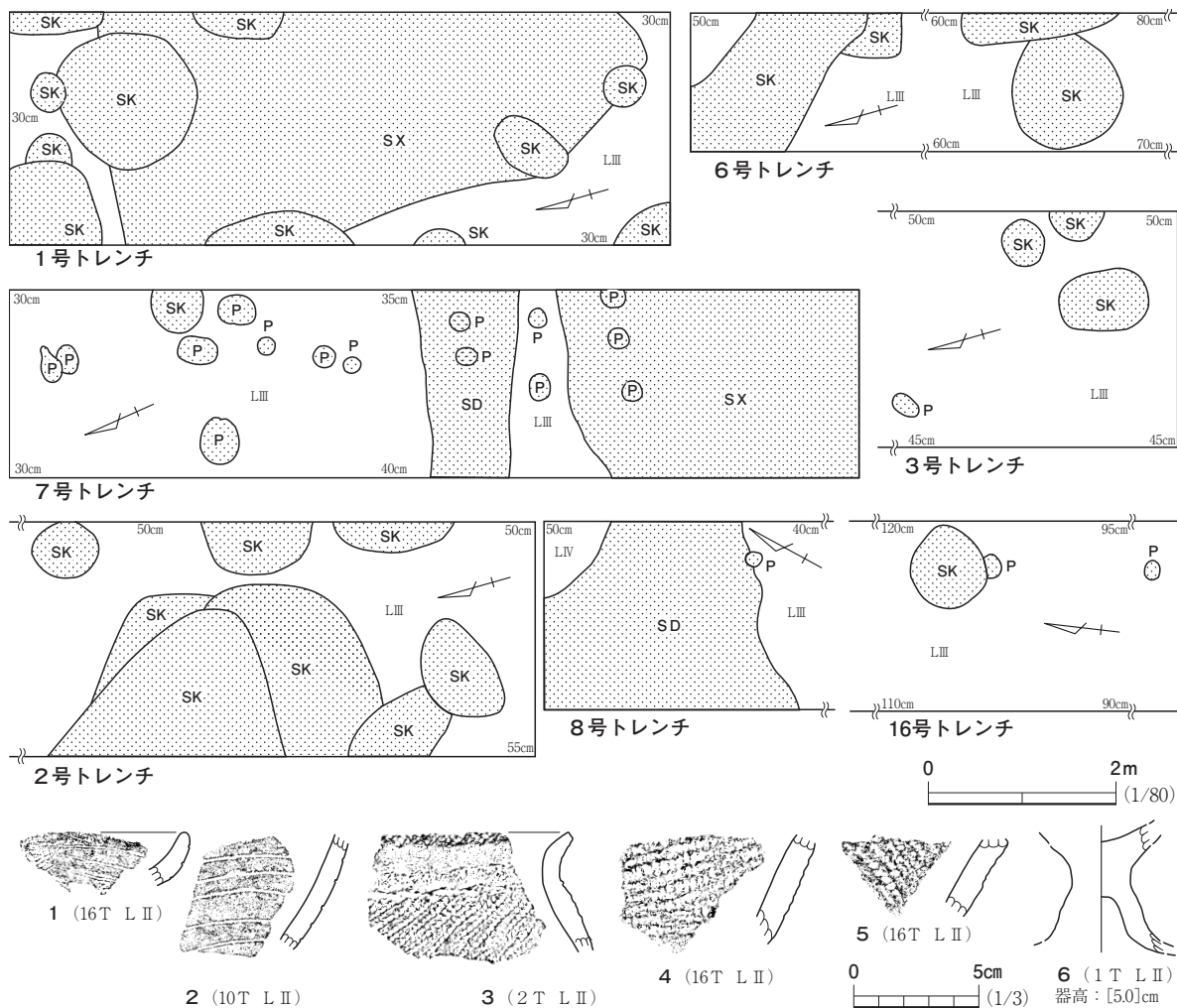


図24 瀧ノ入遺跡検出遺構・出土遺物

また、確認調査が実施できなかった残る1,600㎡の範囲については、急傾斜地であること、かつ9～11 Tで遺構が確認されなかったことをかんがみ、慎重工事の措置とした。よって今回の調査をもって、工区内における瀧ノ入遺跡の確認調査は終了した。

3. CG-B11

所在地 下郷町中妻字辻道

調査対象面積 4,700㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

[概要] CG-B11は、平成19年度の分布(表面)調査において、辻堂下遺跡の隣接地として、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告14』)。阿賀川に面した低位段丘に立地し、現況は大部分がほ場整備の完了した水田である。本年度の試掘調査は、工区内の4,700㎡を対象に、トレンチ8本を設定して行った。

[まとめ] 試掘調査の結果、遺構や遺物は確認できなかった。よって工区内調査範囲は、遺跡として扱わない。なお、本年度条件整備が整わなかった南端部の範囲(300㎡)については、本年度の試掘調査の結果から保存対象外と判断した。東端部(2,000㎡)は、来年度以降に試掘調査を要する範囲として残る。

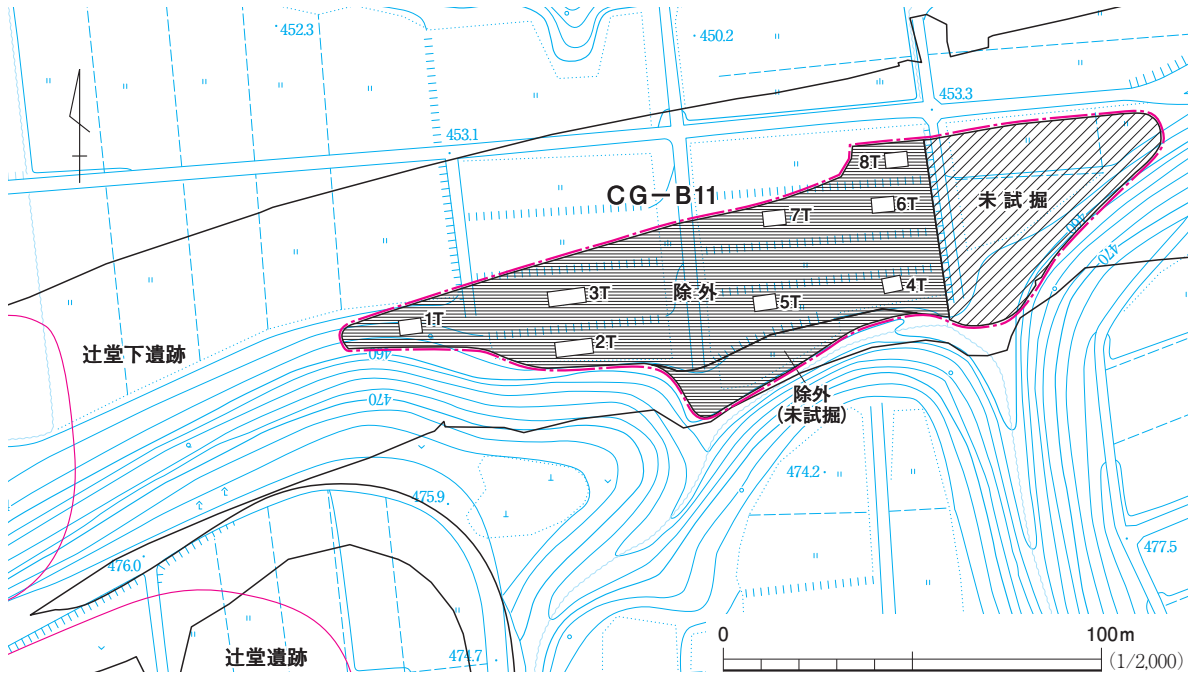


図25 CG-B11トレンチ配置図

4. ^{つじどうした}辻堂下遺跡

所在地 下郷町中妻字辻堂下

調査対象面積 700㎡

検出遺構 なし

保存面積 0㎡

出土遺物 なし

【概要】 辻堂下遺跡は、昭和30年代の新田開発の際に縄文土器が出土したことから(『下郷町遺跡分布調査報告書』)、周知の埋蔵文化財包蔵地として登録された遺跡である。阿賀川に面した低位段丘に立地し、現況は大部分がは場整備の完了した水田である。本年度の確認調査は、工区内の700㎡を対象に、トレンチ2本を設定して行った。

【まとめ】 確認調査の結果、遺構や遺物は確認できなかった。よって本年度の確認調査範囲は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、本年度条件整備が整わなかった北東端部の範囲(100㎡)については、本年度の確認調査の結果から慎重工事の措置とする。このほかの範囲(2,900㎡)は、来年度以降に確認調査を要する。

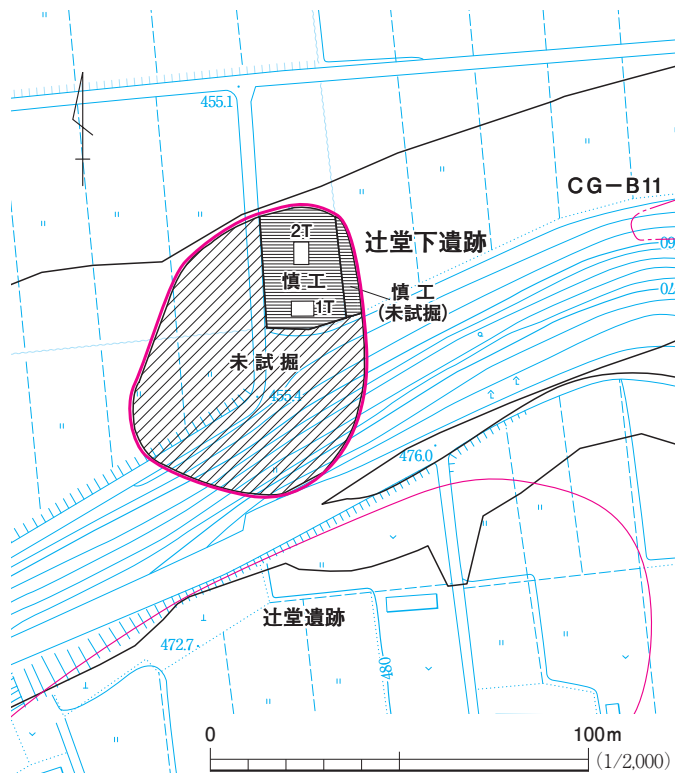


図26 辻堂下遺跡トレンチ配置図

第3節 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)建設予定地

主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)は、重要港湾小名浜湾と常磐自動車道を全長8.3kmの自動車専用道路で結び、広域物流ネットワークの強化によって避難地域の復興を支援するとともに、小名浜港背後整備事業と連携し、当該地域の産業・観光振興の拠点化を支援する、ふくしま復興再生道路として整備されることとなった。現在、平成30年代前半の開通を目指し、福島県土木部いわき建設事務所が事業を進めている。本事業にかかる分布(表面)調査は平成25年度に実施し、周知の遺跡3箇所と新規の遺跡推定地13箇所を確認した(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。

本節は平成27年度に小名浜道路の予定路線内で実施した、計1箇所の遺跡の確認調査の報告である。

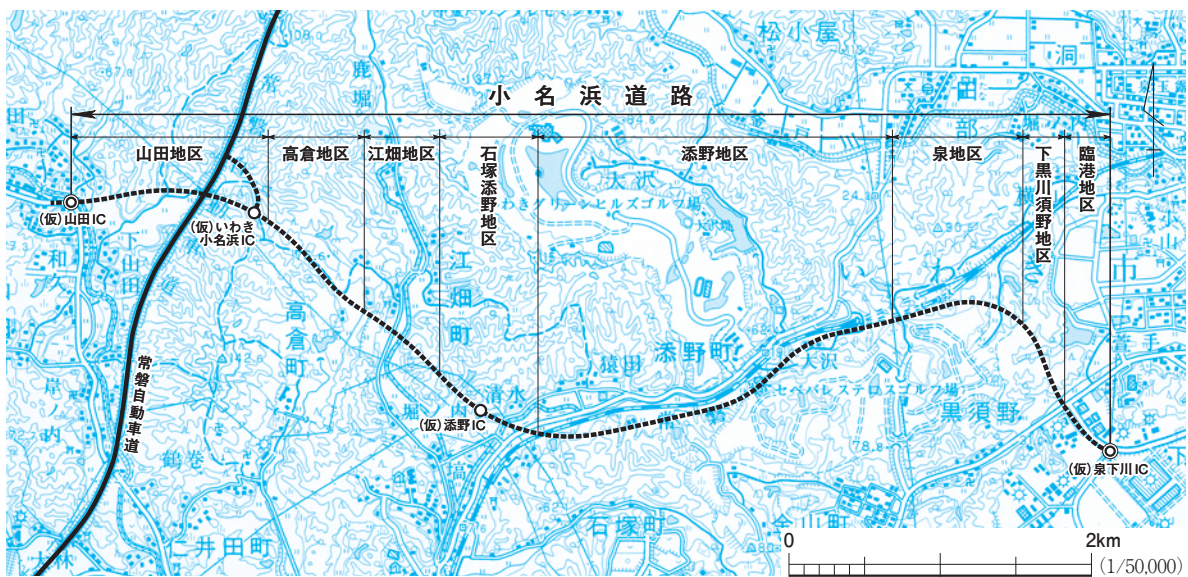


図27 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)位置図

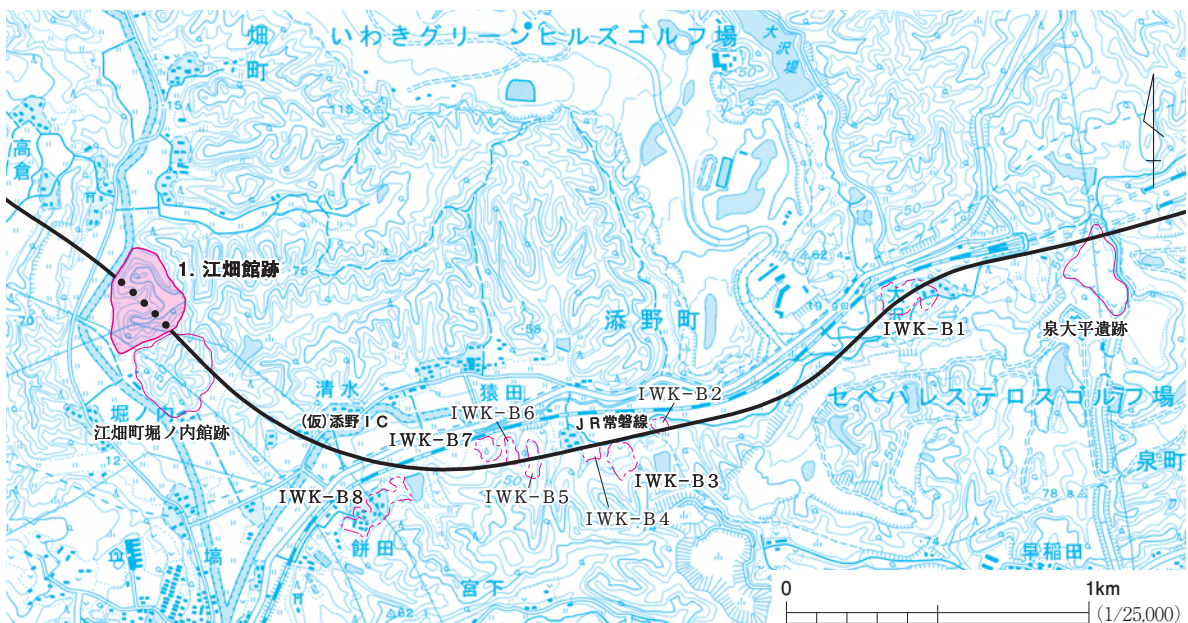


図28 いわき市の遺跡

(1) いわき市の遺跡

1. 江畑館跡

所在地 いわき市江畑町堀ノ内

調査対象面積 10,000㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 土師器

[概要] 江畑館跡は、「福島県中世城館分布図および地名表」(『福島県の中世城館跡』)に記載のある周知の埋蔵文化財包蔵地である。江畑川に面した比高差50mほどの丘陵に立地し、現況は大部分が山林である。

本年度の確認調査は、工区内の10,000㎡を対象に、トレンチ53本を設定して行った。

[まとめ] 確認調査の結果、山頂部の2Tで土師器の碎片が出土したが、遺構は確認できなかった。このほか、工区内に中世城館に関わる遺構は見当たらず、2T以外のトレンチでも遺構や遺物は確認できなかった。よって本遺跡の工区内範囲は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

なお、今回の調査をもって、工区内における本遺跡の確認調査は終了した。

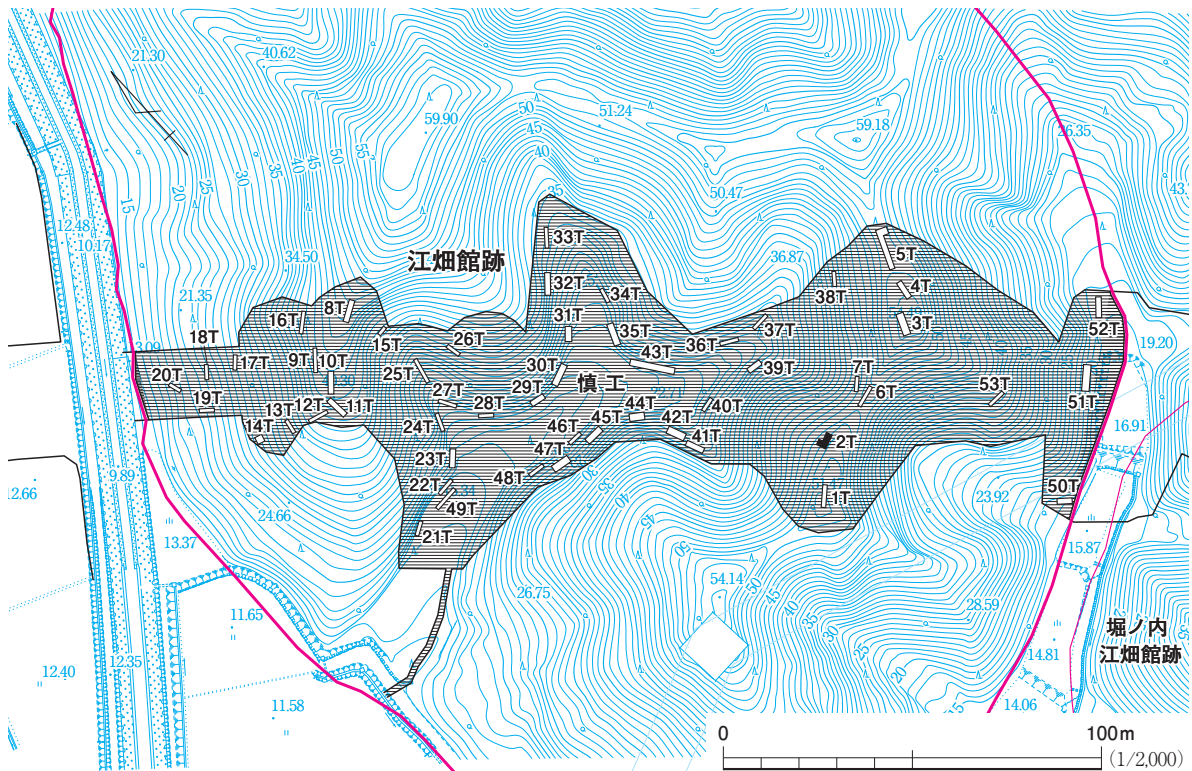


図29 江畑館跡トレンチ配置図

第3章 分布調査

第1節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地

本事業にかかる分布調査は平成24年度に実施したところであるが(『福島県内遺跡分布調査報告21』)、本年度に一部の区間で、工区の変更(追加)が行われたため、新たに分布調査を平成27年6月に行った。その結果、周知の埋蔵文化財包蔵地である大上山遺跡と、その隣接地として遺跡推定地であるDT-B27・DT-B35・DT-B36の3箇所を確認した。

表10 一般国道115号相馬福島道路(追加分)関連遺跡一覧(伊達市)

No.	遺跡名	遺跡番号	所在地	現況	時代	採取遺物	工区内面積(m ²)	備考
1	大上山遺跡	213300377	伊達市保原町大柳字栃窪入	山林・畑地	奈良	土師器	5,100	周知の埋蔵文化財包蔵地
2	DT-B27		伊達市保原町大柳字大上山	山林		石器	3,800	工区拡張により2,700m ² から面積変更
3	DT-B35		伊達市保原町大柳字栃窪入	山林			2,900	新発見の遺跡推定地
4	DT-B36		伊達市保原町大柳字栃窪入	山林			12,700	新発見の遺跡推定地
※大上山遺跡は、今回の調査の結果により埋蔵文化財包蔵地範囲の変更を行った。							工区内計	24,500

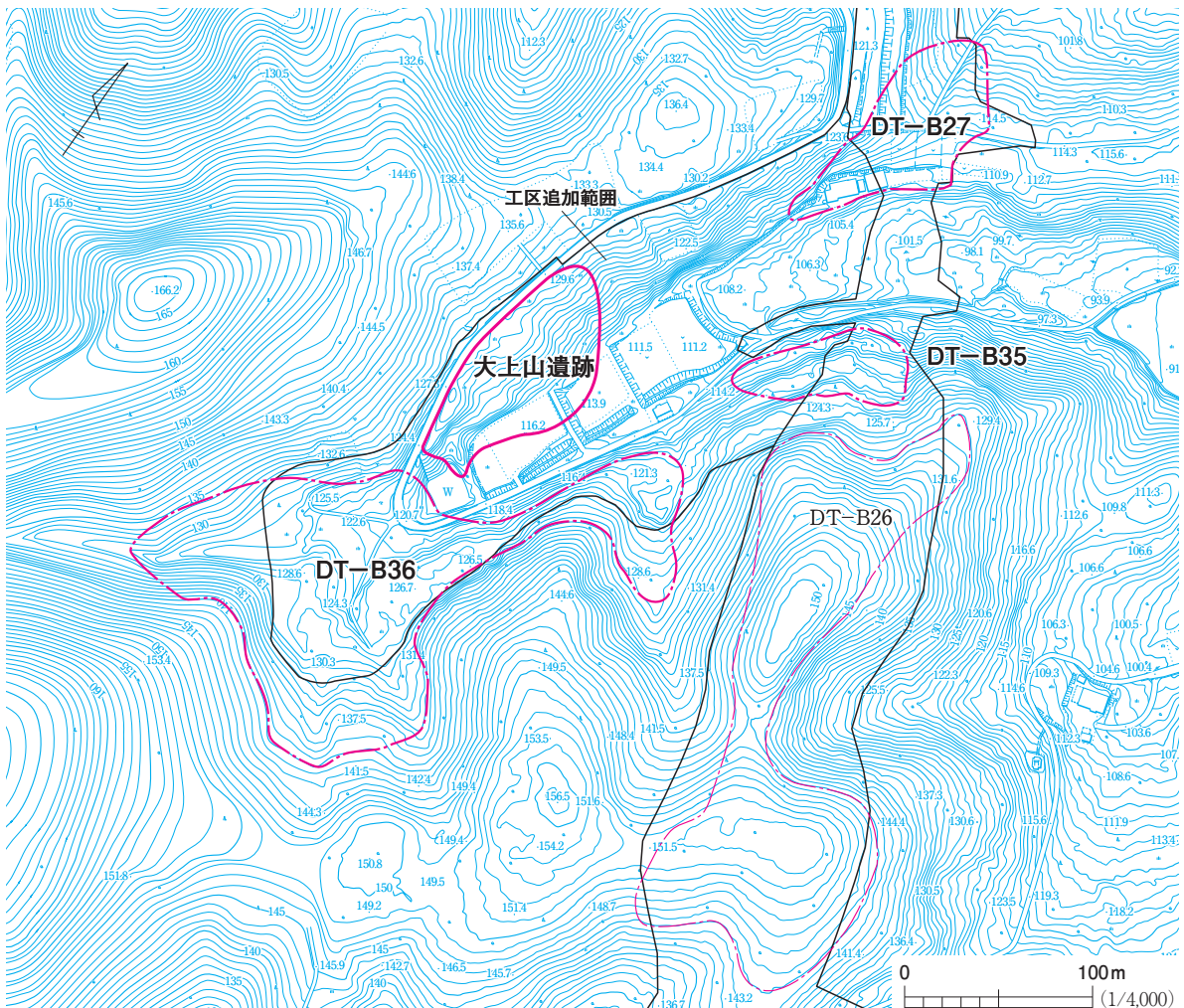


図30 一般国道115号相馬福島道路予定地(追加分)と遺跡・遺跡推定地

第4章 総 括

平成27年度は、試掘・確認調査を3事業(5市町)の計18箇所の遺跡及び遺跡推定地で実施した。分布(表面)調査は1事業(1市)で実施した。これらの調査は平成27年4月下旬から12月中旬の期間で行った。試掘・確認調査の結果、計6箇所では保存を要する範囲が確定した。

なお、保存を要する範囲が確定した埋蔵文化財包蔵地のうち、DT-B34[上ノ台遺跡]では本年度に本発掘調査を実施し、記録保存を終えている。上ノ台館跡とQR-B2[川原田遺跡]と瀧ノ入遺跡は来年度以降に本発掘調査が行われる予定である。

以下、各事業の平成27年度の試掘・確認調査成果を表11～15にまとめたが、各表・本文中で掲示した調査対象面積、保存面積、未試掘面積などは、今後の工事計画の変更により、変動する可能性がある。

1. 一般国道115号相馬福島道路建設予定地

相馬市から伊達市を經由し、桑折町に至る高規格道路である相馬福島道路は、これまで相馬西道路・阿武隈東道路・阿武隈東～阿武隈・霊山道路・霊山～福島との5区間に分かれて事業が進められてきた。このうち、阿武隈東道路・阿武隈東～阿武隈の2区間では試掘・確認調査及び本発掘調査のすべてを完了している。

平成27年度の本事業における試掘・確認調査は、相馬西道路で3箇所、霊山道路で2箇所、霊山～福島で8箇所の計13箇所で行った。

[相馬市] 同市地内の相馬西道路にかかる試掘・確認調査は、SM-B①、SM-B②、SM-B⑤[東羽黒平遺跡]の3箇所で行った。いずれも保存を要する範囲はなかった。これをもって相馬西道路にかかる試掘・確認調査はすべて完了した。なお、本発掘調査についても本年度ですべて終了した。

表11 相馬福島道路(相馬西道路)関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(相馬市)

No	遺跡名	試掘調査			遺跡工区内 面積(m ²)	年度別調査対象面積		未試掘 面積(m ²)	保存 面積(m ²)	備 考					
		終	継	未		年度	面積(m ²)				報告書				
1	SM-B①	●			7,600	H25	850	『県内分21』 『県内分22』 (5頁)	1,000	0	未試掘1,000m ² は除外と判断(『県内分22』)				
						H26	2,650								
						H27	3,100								
2	SM-B②	●			5,900	H25	1,100	『県内分21』 (5頁)	0	0					
						H27	4,800								
3	SM-B③	●			600	H25	600	『県内分21』	0	0					
4	SM-B④	●			1,400	H25	1,400	『県内分21』	0	0					
5	SM-B⑤ (東羽黒平)	●			13,900	H25	9,900	『県内分21』 (6頁)	500	4,800	未試掘500m ² は保存と判断(『県内分21』) H25 東羽黒平遺跡として新規登録 H25(3,500m ²)本発掘調査実施 H26(500m ²)本発掘調査実施 H27(800m ²)本発掘調査実施				
						H27	3,500								
6	SM-B⑨ (横川B)	●			4,600	H25	1,000	『県内分21』 『県内分22』	0	1,600	H26 横川B遺跡として新規登録 H27(1,600m ²)本発掘調査実施				
						H26	3,600								
7	SM-B⑩	●			900	H25	900	『県内分21』	0	0					
8	SM-B⑪	●			500	H25	500	『県内分21』	0	0					
9	SM-B⑬	●			1,600	H25	1,600	『県内分21』	0	0					
10	SM-B⑭	●			7,500	H25	7,500	『県内分21』	0	0					
合 計						10	0	0	44,500	終了	43,000		1,500	6,400	未試掘1,500m ² の内、1,000m ² は除外と判断 保存6,400m ² の本発掘調査終了
										H27	11,400			0	

[伊達市] 同市地内の霊山道路にかかる試掘・確認調査は、DT-B22と山岸遺跡の2箇所で行われ、DT-B22では保存を要する範囲(3,600㎡)が確定され、新規に下小国荒屋敷遺跡として登録した。

霊山道路で平成28年度以降、試掘・確認調査の対象となる遺跡及び遺跡推定地は、DT-B2(1,400㎡)、DT-B5(1,000㎡)、DT-B21[沼ヶ入遺跡](8,900㎡)の3箇所、これらの未試掘面積の合計は11,300㎡である。

同市地内の霊山～福島にかかる試掘・確認調査は、上ノ台館跡、DT-B34[上ノ台遺跡]、DT-B26、DT-B35、DT-B28の5箇所で行われ、DT-B34では保存を要する範囲(600㎡)が確定され、新規に上ノ台遺跡として登録した。

同区間の一部で工区の変更(追加)が行われたため、新たに分布(表面)調査を実施した。その結果、大上山遺跡とDT-B35、DT-B36を新たに追加、DT-B27の試掘対象面積を変更した。

以上により、伊達市地内の霊山～福島で平成28年度以降、試掘・確認調査の対象となる遺跡及び遺跡推定地は、計17箇所、これらの未試掘面積の合計は151,600㎡である。

[桑折町] 同町地内の霊山～福島にかかる試掘・確認調査は、QR-B2[川原田遺跡]、QR-B3、QR-B4の3箇所で行われ、QR-B2では保存を要する範囲(3,700㎡)が確定され、新規に川原田遺跡として登録した。

以上により、桑折町地内の霊山～福島で平成28年度以降、試掘・確認調査の対象となる遺跡及び遺跡推定地は、計5箇所、これらの未試掘面積の合計は30,600㎡である。

表12 相馬福島道路(霊山道路)関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(伊達市)

No	遺跡名	試掘調査			遺跡工区内 面積(㎡)	年度別調査対象面積		未試掘 面積(㎡)	保存 面積(㎡)	備 考	
		終	継	未		年度	面積(㎡)				報告書
1	DT-B9 (行合道B)	●			4,500	H24	4,500	【県内分20】	0	1,200	H24行合道B遺跡として新規登録 H25工区等変更により1,900㎡本発掘調査実施
2	熊屋敷B	●			1,600	H24	1,600	【県内分20】	0	1,100	H25(1,100㎡)本発掘調査実施
3	宝直	●			3,000	H24	3,000	【県内分20】	0	2,000	H25(2,000㎡)協議保存(盛土)
4	宝直館跡	●			16,000	H24	16,000	【県内分20】	0	2,800	H25(1,200㎡)協議保存(盛土) H25(1,600㎡)本発掘調査実施
5	渋谷館跡	●			5,200	H25	5,200	【県内分21】	0	0	
6	前柳館跡	●			2,100	H25 H26	1,800 300	【県内分21】 【県内分22】	0	0	
7	DT-B19	●			3,700	H26	3,400	【県内分22】	300	0	未試掘300㎡は除外と判断(【県内分22】)
8	DT-B20	●			6,700	H26	6,700	【県内分22】	0	0	
9	DT-B3 (福田)	●			3,000	H26	2,700	【県内分22】	300	1,100	未試掘300㎡は除外と判断(【県内分22】) H26 福田遺跡として新規登録 H27(1,100㎡)本発掘調査実施
10	DT-B21 (沼ヶ入)		●		18,800	H26	9,900	【県内分22】	8,900	4,400	H26 沼ヶ入遺跡として新規登録 H27(1,300㎡)本発掘調査実施 H27(3,100㎡)協議保存(盛土)
11	DT-B22 (下小国荒屋敷)	●			33,000	H26 H27	5,700 19,000	【県内分22】 (7頁)	8,300	0 3,600	未試掘8,300㎡は除外と判断(7頁) H27 下小国荒屋敷遺跡として新規登録 H27(3,600㎡)協議保存及び立会対応
12	DT-B2			●	1,400	-	-	-	1,400	-	
13	山岸	●			2,000	H26 H27	400 1,300	【県内分22】 (9頁)	300	0	未試掘300㎡は立会対応(9頁)
14	DT-B5			●	1,000	-	-	-	1,000	-	
	合計	11	1	2	102,000	終了 H27	81,500 20,300		20,500	16,200 3,600	未試掘20,500㎡の内、9,200㎡は除外と判断 保存16,200㎡の内、7,000㎡の本発掘調査終了

表13 相馬福島道路(霊山～福島)関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(伊達市・桑折町)

No.	遺跡名	試掘調査			遺跡工区内 面積(m ²)	年度別調査対象面積			未試掘 面積(m ²)	保存 面積(m ²)	備 考
		終	継	未		年度	面積(m ²)	報告書			
【伊達市】											
1	DT-B 23			●	100	-	-	-	100	-	
2	上ノ台館跡			●	27,900	H 27 (測量)	14,200	(10頁)	4,300	11,900	測量対象面積27,900m ² の内、14,200m ² は測量後、11,900m ² を保存、2,300m ² を慎工と判断(11頁) 保存3,700m ² の内400m ² はDT-B 34(上ノ台)に含める(14頁)
						H 27	9,400	(11頁)		3,700	
3	DT-B 34 (上ノ台)			●	2,300	H 27	1,900	(13頁)	400	600	保存600m ² の内100m ² は上ノ台館跡に加える 残る500m ² は上ノ台遺跡として新規登録 これに上記400m ² を加え、保存900m ² とする H 27(900m ²)本発掘調査実施
4	DT-B 24			●	4,200	-	-	-	4,200	-	
5	DT-B 25			●	8,000	-	-	-	8,000	-	
6	DT-B 26	●			18,500	H 27	18,500	(14頁)	0	0	
7	DT-B 35		●		2,600	H 27	1,400	(14頁)	1,100	0	H 27工区拡張により追加(29頁)
8	DT-B 36			●	10,700		-	-	10,700	-	H 27工区拡張により追加(29頁)
9	DT-B 27			●	4,500	-	-	-	4,500	-	H 27工区拡張により2,700m ² から面積変更(29頁)
10	大上山			●	5,600	-	-	-	5,600	-	H 27工区拡張により追加(29頁)
11	DT-B 28	●			14,200	H 26 H 27	6,000 7,900	【県内分22】 (15頁)	300	0	未試掘300m ² は除外と判断(16頁)
12	DT-B 29			●	19,000	-	-	-	19,000	-	
13	中室内			●	13,700	-	-	-	13,700	-	
14	DT-B 30			●	27,600	-	-	-	27,600	-	
15	DT-B 31			●	8,100	-	-	-	8,100	-	
16	宮本			●	18,000	-	-	-	18,000	-	
17	DT-B 32			●	7,900	-	-	-	7,900	-	
18	荒屋敷			●	9,300	-	-	-	9,300	-	
19	DT-B 33			●	8,800	-	-	-	8,800	-	
伊達市 計		2	3	14	211,000	終了	59,300		151,600	16,200	未試掘151,600m ² の内、300m ² は除外と判断 保存16,200m ² のうち、900m ² 本発掘調査終了
						H 27	53,300			16,200	
【桑折町】											
1	桑折台			●	200	-	-	-	200	-	
2	QR-B 1			●	200	-	-	-	200	-	
3	QR-B 2 (川原田)		●		18,500	H 27	14,600	(16頁)	3,900	3,700	H 27 川原田遺跡として新規登録
4	QR-B 3		●		20,500	H 27	10,800	(19頁)	9,700	0	
5	QR-B 4		●		20,300	H 27	3,700	(20頁)	16,600	0	
桑折町 計		0	3	2	59,700	終了	29,100		30,600	3,700	保存3,700m ² は未発掘
						H 27	29,100			3,700	
伊達市・桑折町 合計		2	6	16	270,700	終了	88,400		182,200	19,900	

2. 地域高規格道路(会津縦貫南道路)建設予定地

会津若松市から下郷町を経由し、南会津町に至る地域高規格道路として計画されている会津縦貫南道路(計5区間)は、これまで若松西バイパス・小沼崎バイパス・湯野上バイパス・下郷田島バイパスの4区間で事業化され、整備が進められてきた。このうち、下郷町地内の小沼崎バイパス・湯野上バイパスについては、平成18・19年度に分布(表面)調査を実施し、平成24・26年度には湯野上バイパスの2箇所を試掘・確認調査を行っている。

【下郷町】 同町地内の湯野上バイパスにかかる試掘・確認調査は、CG-B 13、瀧ノ入遺跡、CG-B 11、辻堂下遺跡の4箇所を実施し、瀧ノ入遺跡では保存を要する範囲(4,000m²)が確定された。CG-B

表14 地域高規格道路(会津縦貫南道路)関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(下郷町)

No.	遺跡名	試掘調査			遺跡工区内 面積(m ²)	年度別調査対象面積			未試掘 面積(m ²)	保存 面積(m ²)	備 考
		終	継	未		年度	面積(m ²)	報告書			
1	CG-B13		●		12,000	H26 H27	600 2,800	『県内分22』 (22頁)	8,600	150	H27工区変更に伴い面積を12,000m ² に変更
2	瀧ノ入	●			7,200	H27	5,600	(23頁)	1,600	4,000	未試掘1,600m ² は慎工と判断(24頁)
3	栗林		●		10,200	H24	8,200	『県内分20』	2,000	5,000	H27(1,600m ²)本発掘調査実施 H27未試掘(現道箇所:150m ²)は立会対応
4	CG-B11		●		7,000	H27	4,700	(25頁)	2,300	-	未試掘2,300m ² の内、300m ² は除外と判断(25頁)
5	辻堂下		●		3,700	H27	700	(26頁)	3,000	-	未試掘3,000m ² の内、100m ² は慎工と判断(26頁)
6	辻堂			●	900	-	-	-	900	-	
7	CG-B9			●	5,100	-	-	-	5,100	-	
8	CG-B10			●	10,800	-	-	-	10,800	-	
下郷町 計		1	4	3	56,900	終了 H27	22,600 13,800		34,300	9,150 4,150	未試掘34,300m ² の内、2,000m ² は慎工・除外と判断 保存9,150m ² のうち、1,600m ² 本発掘調査終了

13でも保存を要する範囲(150m²)は確定したが、周囲の大部分が未試掘であるため、埋蔵文化財包蔵地の名称や範囲確定は平成28年度以降の予定である。

以上により、下郷町地内の湯野上バイパスで平成28年度以降、試掘・確認調査の対象となる遺跡及び遺跡推定地は、計7箇所、これらの未試掘面積の合計は32,300m²である。

3. 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)建設予定地

主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)は、いわき市小名浜湾と常磐自動車道を結ぶ全長8.3kmの自動車専用道路である。本事業にかかる分布(表面)調査は平成25年度に実施し、周知の遺跡3箇所と新規の遺跡推定地13箇所を確認した。本年度より試掘・確認調査を開始した。

【いわき市】 同市地内の小名浜道路にかかる試掘・確認調査は、江畑館跡の1箇所を実施したが、保存を要する箇所はなかった。

平成28年度以降、小名浜道路で試掘・確認調査の対象となる遺跡及び遺跡推定地は、計11箇所、これらの未試掘面積の合計は32,800m²である。

表15 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(いわき市)

No.	遺跡名	試掘調査			遺跡工区内 面積(m ²)	年度別調査対象面積			未試掘 面積(m ²)	保存 面積(m ²)	備 考
		終	継	未		年度	面積(m ²)	報告書			
1	泉大平			●	2,700	-	-	-	2,700	-	
2	IWK-B1			●	5,300	-	-	-	5,300	-	
3	IWK-B2			●	600	-	-	-	600	-	
4	IWK-B3			●	1,000	-	-	-	1,000	-	
5	IWK-B4			●	1,500	-	-	-	1,500	-	
6	IWK-B5			●	2,000	-	-	-	2,000	-	
7	IWK-B6			●	1,100	-	-	-	1,100	-	
8	江畑町 堀ノ内館跡			●	8,900	-	-	-	8,900	-	
9	江畑館跡	●			10,000	H27	10,000	(28頁)	0	0	
10	IWK-B10			●	1,400	-	-	-	1,400	-	
11	IWK-B11			●	400	-	-	-	400	-	
12	IWK-B13			●	7,900	-	-	-	7,900	-	
いわき市 計		1	0	11	42,800	終了 H27	10,000 10,000		32,800	0 0	

【表11～15用 例】 『県内分*』 → 『福島県内遺跡分布調査報告*』、(* 頁) → 本報告書掲載ページ、終→終了、継→調査継続中、未→未着手 以下、共通。

※ 試掘対象面積・未試掘面積などは、工事計画などにより変更される場合がある。

4. 埋蔵文化財包蔵地の登録と変更

本報告における分布調査及び試掘・確認調査の結果、3件の埋蔵文化財包蔵地を新規に登録し、1件の埋蔵文化財包蔵地について内容の変更を行った。今後は、以下の内容に基づいて埋蔵文化財の保護を行う。

[伊達市]

しもおくにあらやしき

下小国荒屋敷遺跡(伊達市霊山町下小国字荒屋敷)

相馬福島道路建設予定地内で、遺跡推定地DT-B22の試掘調査を実施したところ、縄文時代の遺物包含層を確認した。この層の拡がりが見込まれる範囲を中心に、埋蔵文化財包蔵地として新規に登録した。登録面積は9,300㎡である。

かみのだい

上ノ台遺跡(伊達市霊山町下小国字上ノ台)

相馬福島道路建設予定地内で、上ノ台館跡の確認調査及び遺跡推定地DT-B34の試掘調査を実施したと

表16 埋蔵文化財包蔵地(新規・変更)一覧

市町村 コード	遺跡 コード	遺跡名	所在地	登録概要	種別	時代	面積	備考
2133	00660	下小国荒屋敷遺跡	伊達市霊山町下小国字荒屋敷	新規登録	散布地	縄文、平安	9,300㎡	DT-B22-B2を下小国荒屋敷遺跡として登録
2133	00659	上ノ台遺跡	伊達市霊山町下小国字上ノ台	新規登録	散布地	縄文、中世	900㎡	DT-B34を上ノ台遺跡として登録
2133	00377	大上山遺跡	伊達市保原町大柳字柵窪入	範囲変更	散布地	奈良	5,600㎡	分布調査の結果による
3016	00103	川原田遺跡	桑折町松原字川原田	新規登録	散布地	縄文、平安	9,100㎡	QR-B2を川原田遺跡として登録

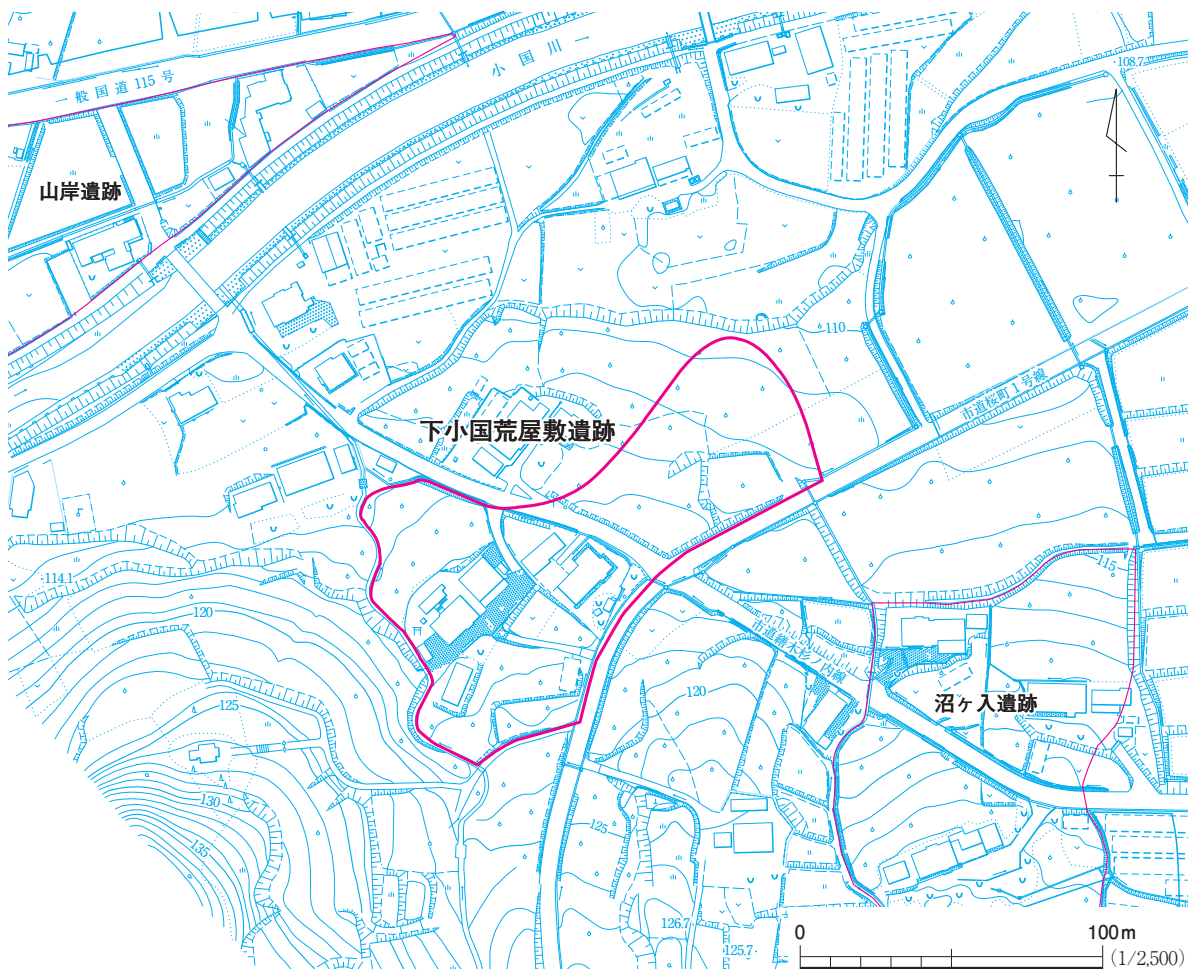


図31 下小国荒屋敷遺跡の範囲

ころ、縄文時代の遺物包含層を確認した。この層の拡がり予想される範囲を中心に、埋蔵文化財包蔵地として新規に登録した。登録面積は900㎡である。

だいじょうやま
大上山遺跡(伊達市保原町大柳字柝窪入)

相馬福島道路建設予定地内で、分布(表面)調査を実施したところ、丘陵斜面及び裾部に埋蔵文化財の拡がり予想されるため、周知の埋蔵文化財包蔵地である大上山遺跡の範囲を変更した。変更後の登録面積は5,600㎡である。

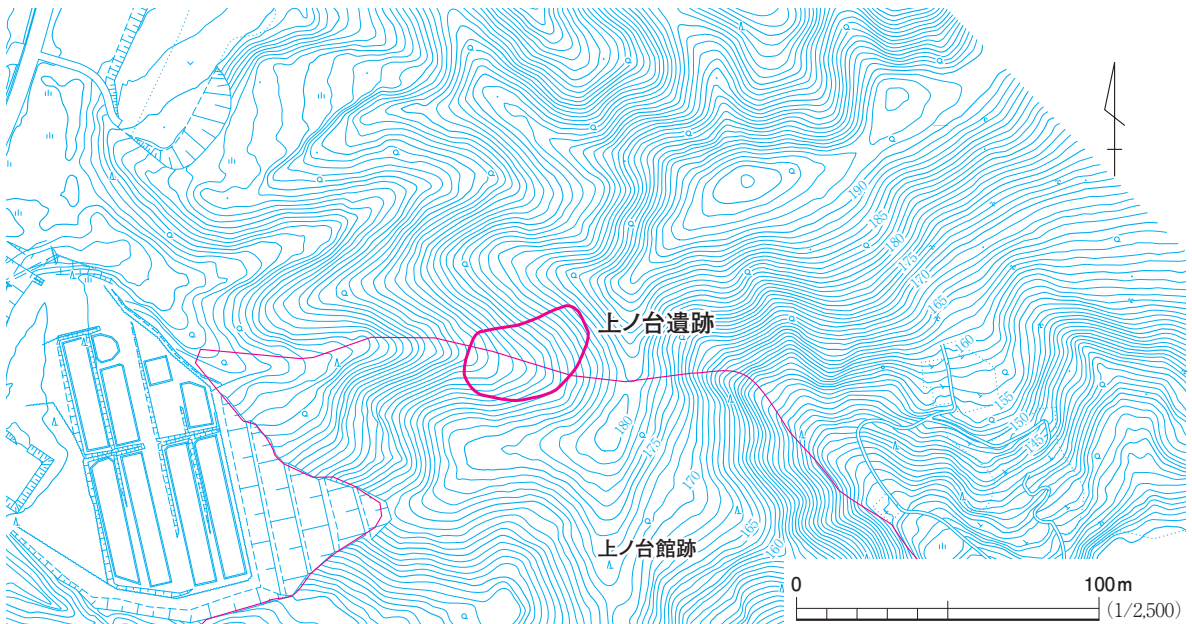


図32 上ノ台遺跡の範囲

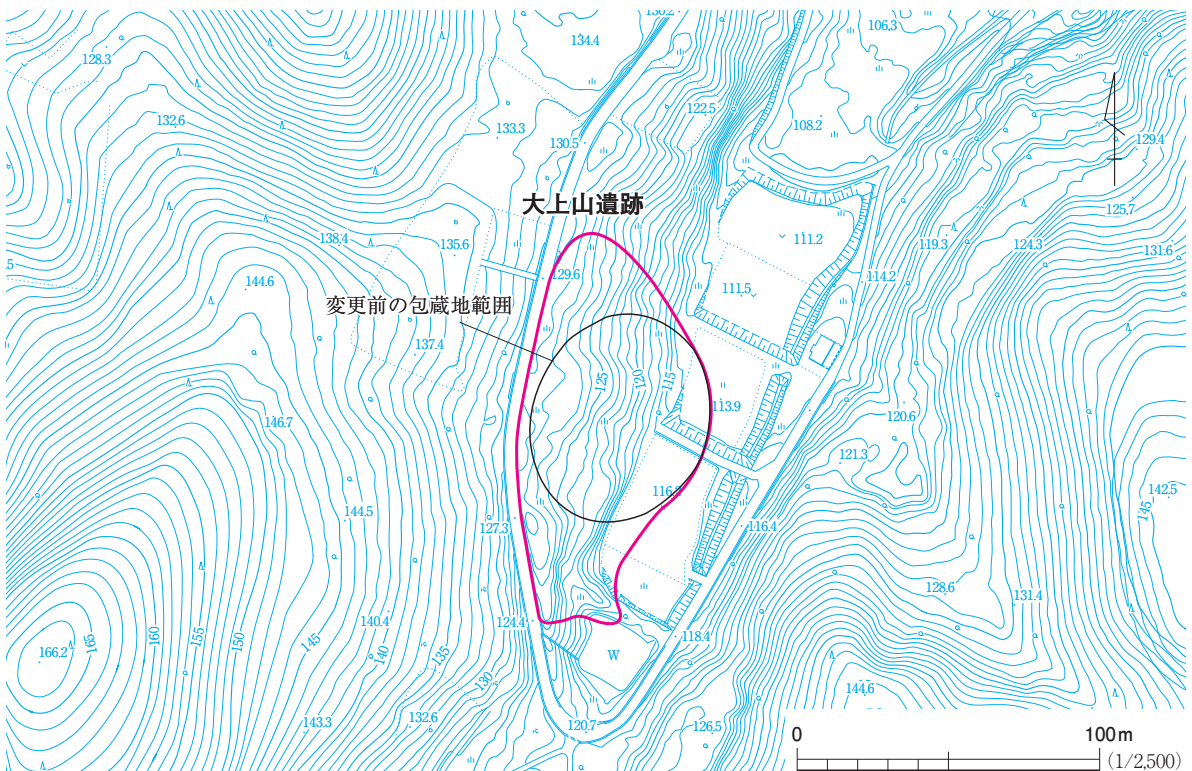


図33 大上山遺跡の範囲

[桑折町]

かわはらだ
川原田遺跡(桑折町松原字川原田)

相馬福島道路建設予定地内で、遺跡推定地QR-B2の試掘調査を実施したところ、縄文・平安時代の遺物包含層と土坑や溝跡などを確認した。遺物包含層の拡がりが見込まれる範囲を中心に、埋蔵文化財包蔵地として新規に登録した。登録面積は9,100㎡である。

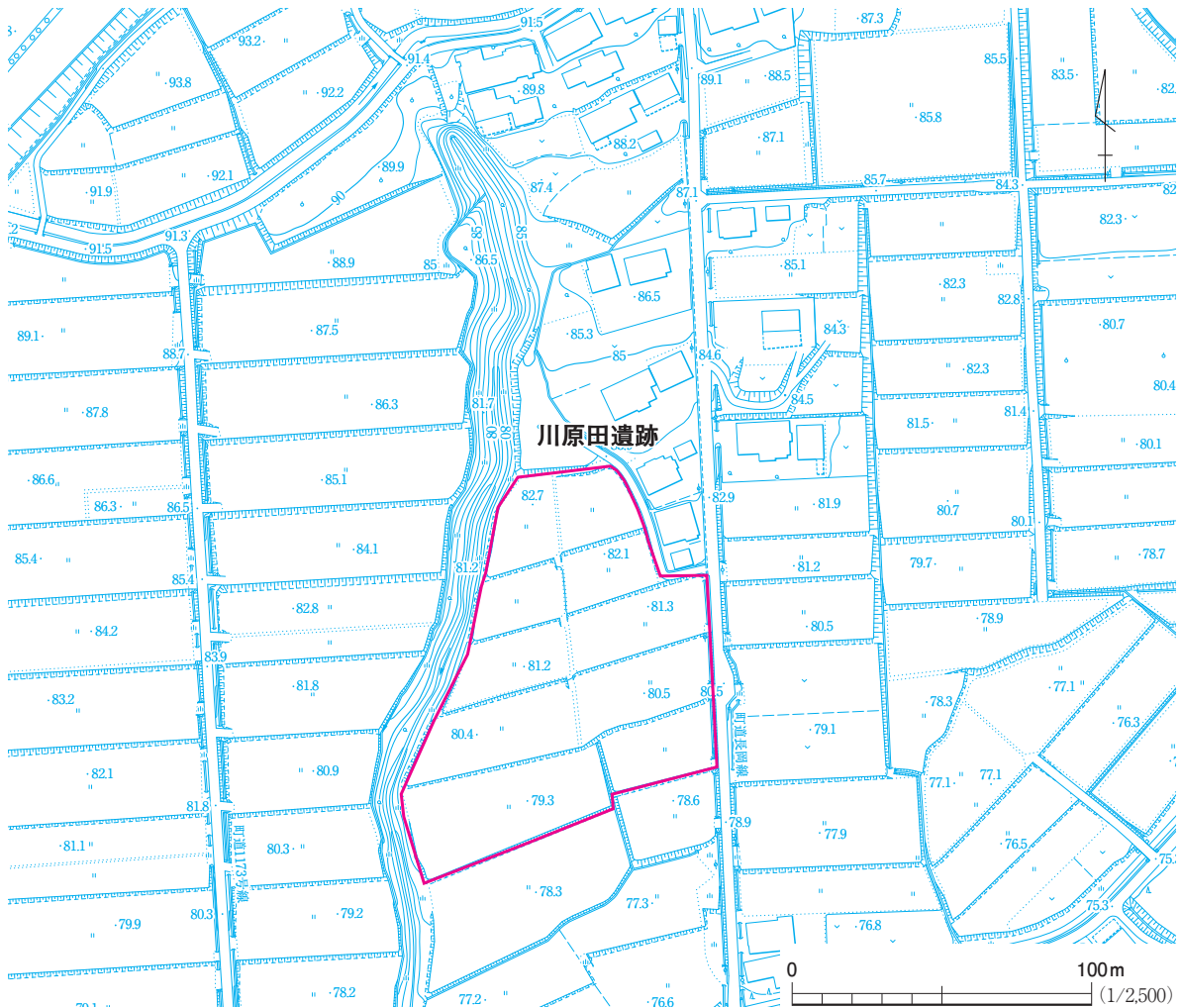


図34 川原田遺跡の範囲

引用文献

- 福島県教育委員会 1988 『福島県の中世城館跡』 福島県文化財調査報告書第197集
- 下郷町教育委員会 1990 『下郷町遺跡分布調査報告書』 下郷町文化財調査報告書第4集
- 福島県教育委員会 2007 『福島県内遺跡分布調査報告13』 福島県文化財調査報告書第440集
- 福島県教育委員会 2008 『福島県内遺跡分布調査報告14』 福島県文化財調査報告書第447集
- 福島県教育委員会 2012 『福島県内遺跡分布調査報告19』 福島県文化財調査報告書第484集
- 福島県教育委員会 2013 『福島県内遺跡分布調査報告20』 福島県文化財調査報告書第494集
- 福島県教育委員会 2014 『福島県内遺跡分布調査報告21』 福島県文化財調査報告書第502集
- 福島県教育委員会 2015 『福島県内遺跡分布調査報告22』 福島県文化財調査報告書第504集

報告書抄録

ふりがな	ふくしまけんないいせきぶんぶちようさほうこく23							
書名	福島県内遺跡分布調査報告 23							
シリーズ名	福島県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 512 集							
編著者名	福島県教育庁文化財課(編集):小林雄一 関 敦司 公益財団法人福島県文化振興財団:門脇秀典 鶴見諒平 安田 創							
編集機関	福島県教育委員会 〒960-8688 福島県福島市杉妻町 2-16 TEL 024-521-1111							
発行機関	福島県教育委員会 〒960-8688 福島県福島市杉妻町 2-16 TEL 024-521-1111							
発行年月日	2016年7月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯*1	東経*1	発掘期間	発掘面積*2 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
SM-B①	ふくしまけんそうましやまかみ 福島県相馬市山上	07209	なし	37° 46' 58"	140° 54' 8"	20150618~20150619	180.0	試掘調査
SM-B②	ふくしまけんそうましやまかみ 福島県相馬市今田	07209	なし	37° 46' 46"	140° 54' 7"	20150617・20151111	211.8	試掘調査
ひがしはぐみだいら 東羽黒平 (SM-B⑤)	ふくしまけんそうましやまかみ 福島県相馬市今田	07209	00212	37° 46' 26"	140° 53' 37"	20150630・20151110	82.0	確認調査
しもおぐにあらやしき 下小国荒屋敷 (DT-B 22)	ふくしまけんだてしりょうぜんまちしもおぐに 福島県伊達市霊山町下小国	07213	00660	37° 46' 1"	140° 35' 17"	20150513~20150521	500.5	試掘調査
やまぎし 山岸	ふくしまけんだてしりょうぜんまちしもおぐに 福島県伊達市霊山町下小国	07213	00643	37° 46' 3"	140° 35' 12"	20150522	41.0	確認調査
かみのだいたてあと 上ノ台館跡	ふくしまけんだてしりょうぜんまちしもおぐに 福島県伊達市霊山町下小国	07213	00654	37° 46' 15"	140° 35' 13"	20150615~20150729	259.3	確認調査
かみのだい 上ノ台 (DT-B 34)	ふくしまけんだてしりょうぜんまちしもおぐに 福島県伊達市霊山町下小国	07213	00659	37° 46' 16"	140° 35' 13"	20150713~20150729	29.5	試掘調査
DT-B 26	ふくしまけんだてしりょうぜんまちしもおぐに 福島県伊達市保原町大柳	07213	なし	37° 47' 39"	140° 32' 57"	20151124~20151211	707.0	試掘調査
DT-B 35	ふくしまけんだてしりょうぜんまちしもおぐに 福島県伊達市保原町大柳	07213	なし	37° 47' 46"	140° 32' 52"	20151209	32.0	試掘調査
DT-B 28	ふくしまけんだてしりょうぜんまちしもおぐに 福島県伊達市保原町上保原	07213	なし	37° 48' 10"	140° 32' 30"	20150728~20150805	528.0	試掘調査
かわほらだ 川原田 (QR-B 2)	ふくしまけんだてしりょうぜんまちしもおぐに 福島県伊達郡桑折町松原、同 成田	07301	00103	37° 49' 59"	140° 29' 37"	20150929~20151009	499.8	試掘調査
QR-B 3	ふくしまけんだてしりょうぜんまちしもおぐに 福島県伊達郡桑折町松原	07301	なし	37° 49' 56"	140° 29' 26"	20150914~20150928	248.0	試掘調査
QR-B 4	ふくしまけんだてしりょうぜんまちしもおぐに 福島県伊達郡桑折町松原	07301	なし	37° 49' 59"	140° 29' 16"	20150901~20150904	108.9	試掘調査
CG-B 13	ふくしまけんみなみあいづけんしもつちまちかしま 福島県南会津郡下郷町高隣	07362	なし	37° 18' 28"	139° 54' 23"	20150901~20150904 20151021	96.0	試掘調査
たきのいり 瀧ノ入	ふくしまけんみなみあいづけんしもつちまちしらいわ 福島県南会津郡下郷町白岩	07362	00141	37° 17' 4"	139° 54' 46"	20151022~20151105	284.7	確認調査
CG-B 11	ふくしまけんみなみあいづけんしもつちまちなかづま 福島県南会津郡下郷町中妻	07362	なし	37° 15' 38"	139° 53' 11"	20151021	55.0	試掘調査
つじどうした 辻堂下	ふくしまけんみなみあいづけんしもつちまちなかづま 福島県南会津郡下郷町中妻	07362	00029	37° 15' 37"	139° 53' 3"	20151020	16.0	確認調査
えぼたたてあと 江畑館跡	ふくしまけんいわきしえぼたまちほりのうち 福島県いわき市江畑町堀ノ内	07204	01285	36° 56' 33"	140° 47' 37"	20151118~20151211	387.0	確認調査
特記事項	<p>相馬福島道路建設予定地内(伊達市)のDT-B 22で試掘調査を実施したところ、縄文時代の遺物包含層を確認した。このため、下小国荒屋敷遺跡として新規登録した。同予定地(伊達市)のDT-B 34の調査でも、縄文時代の遺物包含層を確認したため、上ノ台遺跡として新規登録した。同予定地(桑折町)のQR-B 2の調査では縄文・平安時代の遺構や遺物を確認したため、川原田遺跡として新規登録した。このほか、同予定地(伊達市)の上ノ台館跡では測量・確認調査を実施し、建設予定地内の15,600㎡を保存を要する範囲とした。</p> <p>会津縦貫南道路建設予定地内(下郷町)の瀧ノ入遺跡で確認調査を実施したところ、弥生時代の遺物包含層や土坑を確認した。このため、建設予定地内の4,000㎡を保存を要する範囲とした。同予定地(下郷町)のCG-B 13の調査でも縄文時代の土坑が見つかったため、建設予定地内の150㎡を保存を要する範囲とした。</p>							
要約	<p>福島県教育委員会が平成27年度に実施した、相馬福島道路・会津縦貫南道路・小名浜道路建設予定地内における埋蔵文化財の分布・測量調査、並びに同予定地内の遺跡及び遺跡推定地を対象とする試掘・確認調査の報告書である。</p> <p>151,600㎡を対象とした測量・試掘・確認調査の結果、遺跡5箇所、遺跡推定地1箇所合計面積27,650㎡について保存が必要と判断した(表1~3参照)。また、3件の埋蔵文化財包蔵地を新規に登録し、1件の埋蔵文化財包蔵地について遺跡範囲の変更を行った(表16参照)。</p>							

*1 経緯度数値は世界測地系(平成14年4月1日から適用)による。 *2 トレンチ掘削面積を示す。

福島県文化財調査報告書第512集

福島県内遺跡分布調査報告 23

平成 28 年 7 月 29 日発行

編集・発行 福島県教育委員会

〒960-8688 福島市杉妻町 2-16

印刷 八幡印刷株式会社

〒970-8026 いわき市平字田町 82-13

2016